

看護学専攻  
(博士後期課程)

看護学専攻 博士後期課程

基礎看護科学分野

## 看護学専攻博士後期課程（令和 5年度学則） 【基礎看護科学分野】

### (1) 高い倫理観

生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理観を持ち、他者を尊重し、自己を律して、研究を遂行できる。

### (2) 専門領域における最新知識

看護ケアの質の向上を目指して、専門分野における最新知識を基に専門性の高い看護ケアを開発できる。

### (3) 専門領域における優れたマネジメント能力

社会のニーズに対応した看護実践の改革・向上に向けて、教育的・管理的リーダーシップを發揮し、組織的にマネジメントができる。

### (4) 先行研究を批判的に吟味できる能力

看護・保健領域における国内外の学術論文を、仮説の設定、研究デザイン、データ分析と解釈および考察について、批判的に吟味することができる。

### (5) 看護・保健領域における課題発見能力

看護・保健領域における課題を、学際的・国際的な視野での科学的思考と問題の本質を見抜く論理的思考、柔軟な視点を持って発見できる。

### (6) 研究遂行能力

学際的・国際的な視野を持って看護学における課題を自ら発見し、看護学を体系化するために、自立して研究を推進できる。

専門分野	授業科目	単位認定者 (R 7)	単位数	開講時期		社会人特別選抜		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)
				春	秋	夜間	土曜						
基礎 看 護 科 学	生活機能看護学	荒添 美紀	4	○	○	○	×	★	★	★	★	★	
	健康支援看護学	金子 多喜子	4	○	○	×	○	★	★	★	★	★	
	統計学 I	照屋 浩司	2	○		○	×		★	★	★	★	
	統計学 II	照屋 浩司	2		○	○	×	★	★	★	★	★	

## 【看護学専攻 基礎看護科学分野 博士後期課程 履修モデル】

### ★看護教育の研究者を目指す社会人大学院生の履修例

- ・主科目として、生活機能看護学もしくは健康支援看護学、統計学Ⅰ、統計学Ⅱ、ジャーナルクラブⅠ、ジャーナルクラブⅡ、特別研究Ⅰ、Ⅱ、Ⅲの計22単位を履修する。
- ・上記のうち、統計学Ⅱ以外は必修科目である。

修了要件 (20単位以上)							
科目と単位	1セメスター	2セメスター	3セメスター	4セメスター	5セメスター	6セメスター	計
主科目	専門分野講義科目	生活機能看護学 もしくは 健康支援看護学	4				20
	統計学Ⅰ	2	統計学Ⅱ	2			
	ジャーナルクラブ			ジャーナルクラブⅠ 2		ジャーナルクラブⅡ 2	
	特別研究	特別研究Ⅰ	4		特別研究Ⅱ 2	特別研究Ⅲ 2	
	小計	2	10	2	2	4	0
副科目	他分野科目						0
	小計	0	0	0	0	0	0
合計		2	10	2	2	4	0
							20

科目名	生活機能看護学	授業コード	24N20011 / 24N20012
代表教員	荒添 美紀	担当教員	
授業概要	生活機能の改善、維持、向上を支援するためには、生活機能を向上させるための支援策をより効果的に実施するためには、ヒューマンスキルやコンセプチュアルスキルも必要となってくる。そこで本講義では、看護師として生活機能の向上を支援するために必要なヒューマンスキルやコンセプチュアルスキルについて探求する。また、看護教育制度を踏まえて、ヒューマンスキルやコンセプチュアルスキルの教育方法のあり方を検討する。		
学位授与方針の関連 学習目標	<p>『学位授与方針との関連』</p> <p>(1) 高い倫理観 生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理観を持ち、他者を尊重し、自己を律して、研究を遂行できる。</p> <p>(2) 専門領域における最新知識 看護ケアの質の向上を目指して、専門分野における最新知識を基に専門性の高い看護ケアを開発できる。</p> <p>(3) 専門領域における優れたマネジメント能力 社会のニーズに対応した看護実践の改革・向上に向けて、教育的・管理的リーダーシップを發揮し、組織的にマネジメントができる。</p> <p>(4) 先行研究を批判的に吟味できる能力 看護・保健領域における国内外の学術論文を、仮説の設定、研究デザイン、データ分析と解釈および考察について、批判的に吟味することができる。</p> <p>(5) 看護・保健領域における課題発見能力 看護・保健領域における課題を、学際的・国際的な視野での科学的思考と問題の本質を見抜く論理的思考、柔軟な視点を持って発見できる。</p> <p>『一般目標(GI0)』 看護師として生活機能の向上を支援するために必要なヒューマンスキルやコンセプチュアルスキルについて理解する。また、看護教育制度を踏まえて、ヒューマンスキルやコンセプチュアルスキルの教育方法のあり方を検討する。</p> <p>『個別目標(SB0s)』</p> <p>①生活機能の向上を支援するために必要なヒューマンスキルが説明することができる。(知識)</p> <p>②さまざまな関係者間のコミュニケーションについて述べられる。(知識)</p> <p>③生活機能の向上を支援するために必要なコンセプチュアルスキルについて説明できる。(知識)</p> <p>④生活機能の向上を支援するために必要なヒューマンスキルやコンセプチュアルスキルを育成するための教育方法を検討することができる。(知識)</p>		

授業計画	<p>1. ガイダンス、学習計画の立案[講義・質疑応答・ディスカッション] 授業の目的、内容・方法、スケジュールの確認および学習計画を作成する。</p> <p>2-5. ヒューマンスキル (1) に関する文献検討 [プレゼンテーション・ディスカッション] リーダーシップ、動機づけ、コミュニケーションに関する文献検討</p> <p>6-9. 生活機能向上のためのヒューマンスキル [プレゼンテーション・ディスカッション] 生活機能向上のためのヒューマンスキルの文献学習をもとにディスカッションし、学習を深める。</p> <p>10-14. コンセプチュアルスキルに関する文献検討 [プレゼンテーション・ディスカッション] 論理的思考、クリティカルシンキング、多面的視野などのコンセプチュアルスキルに関する文献検討</p> <p>15-18. 生活機能向上のためのコンセプチュアルスキルの育成 [プレゼンテーション・ディスカッション] 生活機能向上のためのコンセプチュアルスキルの文献学習をもとにディスカッションし学習を深める。</p> <p>19-22. 我が国の看護教育制度や看護学教育における課題に関する文献検討 [プレゼンテーション・ディスカッション]</p> <p>23-24. 看護学教育における今日的課題 [プレゼンテーション・ディスカッション・講義・質疑応答]</p> <p>25-30. 生活機能の向上を支援するために必要なヒューマンスキルやコンセプチュアルスキルを育成するための教育方法の検討 [プレゼンテーション・講義・質疑応答] (フィードバック方法) 各回の授業初めに前回の授業に関して質疑応答し、不適切な理解を修正する</p>
準備学習	<p>(予習) 1-30. 各回とも、それぞれのテーマに関する基礎的な事項を学習し直しておくこと。 次回テーマに関してのデータ整理、検討したうえで資料を作成し、前日までに資料を配布しておくこと。</p> <p>(復習) 1-30. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。 ※全ての回、予習は 30 分、復習は 30 分必要とする。 ☆概ね週当たり 4 時間以上必要である。 ☆時間外学習時間（予習復習など）は 120 時間以上が必要であるため不足分は休暇などをを利用して復習しておくこと。</p>
評価方法	プレゼンテーション(40%)、ディスカッション(30%)、レポート(40%)
備考	この科目は 4 単位です。

科目名	健康支援看護学	授業コード	24N20021 / 24N20022
代表教員	金子 多喜子	担当教員	
授業概要	各国の看護教育の歴史的変遷と制度についてレビューするとともに、わが国の教育制度を踏まえて、看護教育のあり方を検討する。また、看護学教育における国内外の課題について分析し、研究の動向と課題を探求する。さらに、保健師助産師看護師法などの改正に注目し、看護専門職の資質能力の一層の向上を図るための「看護学基礎カリキュラム」の構築を試みる。		
学位授与の方針の関連 学習目標	<p>学位授与の方針との関連</p> <p>(1) 高い倫理観 生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理観を持ち、他者を尊重し、自己を律して、研究を遂行できる。</p> <p>(2) 専門領域における最新知識 看護ケアの質の向上を目指して、専門分野における最新知識を基に専門性の高い看護ケアを開発できる。</p> <p>(3) 専門領域における優れたマネジメント能力 社会のニーズに対応した看護実践の改革・向上に向けて、教育的・管理的リーダーシップを發揮し、組織的にマネジメントができる。</p> <p>(4) 先行研究を批判的に吟味できる能力 看護・保健領域における国内外の学術論文を、仮説の設定、研究デザイン、データ分析と解釈および考察について、批判的に吟味することができる。</p> <p>(5) 看護・保健領域における課題発見能力 看護・保健領域における課題を、学際的・国際的な視野での科学的思考と問題の本質を見抜く論理的思考、柔軟な視点を持って発見できる。</p> <p>『一般目標 (GIO)』 社会と看護、組織と個人のつながりを検討する。</p> <p>『個別目標 (SB0s)』</p> <p>①社会の変化と看護行政を理解する。(知識)</p> <p>②看護とキャリア教育の課題を考察する。(知識)</p> <p>③看護師として働くことについて考察する。(知識)</p>		
授業計画	<p>1. 学習計画の立案 [講義・質疑応答]</p> <p>2-5. 各国の看護教育の歴史的変遷と制度に関する文献検討 [講義・質疑応答]</p> <p>6-9. わが国の教育制度に関する文献検討 [講義・質疑応答]</p> <p>10-11. 看護専門職者を育成するための看護学教育の方法 [プレゼンテーション・講義・質疑応答]</p> <p>12-15. 看護学教育における課題に関する文献検討 [講義・質疑応答]</p> <p>16-18. 看護学教育における今日的課題 [プレゼンテーション・講義・質疑応答]</p> <p>19-22. 大学における看護学基礎カリキュラムに関する文献検討 [講義・質疑応答]</p> <p>23-24. 今後の大学における看護系人材のあり方 [プレゼンテーション・講義・質疑応答]</p> <p>25-30. 「看護学基礎カリキュラム」の素案作成 [講義・質疑応答] (フィードバック方法) 課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。</p>		

	<p>(予習)          1-30. 各回ともそれぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。          また、国内外の看護学教育に関連する文献検索し、精選した文献の内容についてまとめておく。</p> <p>(復習)          1-30. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。          ※全ての回、予習は 30 分、復習は 30 分必要とする。          ☆概ね週当たり 4 時間以上必要である。          ☆時間外学習時間（予習復習など）は 120 時間以上が必要であるため不足分は休暇などをを利用して復習しておくこと。</p>
評価方法	プレゼンテーション(30%)、口頭試問(30%)、レポート(40%)
備考	この科目は 4 単位です。

科目名	統計学 I	授業コード	24N20031
代表教員	照屋 浩司	担当教員	
授業概要	<p>自然科学分野の研究において、研究方法・調査方法の決定や得られたデータを客観的に評価するためには、統計学的な手法を適切に利用することが重要である。本講では、数式などはできるだけ用いずに、集団のデータの基本的な取り扱いの考え方や手法について、自身の研究や文献の抄読に役立てるための基本事項の解説と模擬データを用いた演習を実施する。統計解析用アプリケーションとしては主に EZR の使用を予定している。</p>		
学位授与方針の関連 学習目標	<p>『学位授与方針との関連』。</p> <p>(3) 専門領域における優れたマネジメント能力 社会のニーズに対応した看護実践の改革・向上に向けて、教育的・管理的リーダーシップを發揮し、組織的にマネジメントができる。</p> <p>(4) 先行研究を批判的に吟味できる能力 看護・保健領域における国内外の学術論文を、仮説の設定、研究デザイン、データ分析と解釈および考察について、批判的に吟味することができる。</p> <p>(5) 看護・保健領域における課題発見能力 看護・保健領域における課題を、学際的・国際的な視野での科学的思考と問題の本質を見抜く論理的思考、柔軟な視点を持って発見できる。</p> <p>(6) 研究遂行能力 学際的・国際的な視野を持って看護学における課題を自ら発見し、看護学を体系化するために、自立して研究を推進できる。</p> <p>『個別目標(SB0s)』</p> <p>①基礎的な統計学的解析について修得する。</p> <p>②模擬データおよび実際のデータについて、必要な解析方法を選択、実施し、その解釈まで行うことができる。</p>		
授業計画	<p>1. 調査技法 [講義・演習・質疑応答] 標本調査についての基礎的な理解と、質問紙調査の概要について学ぶ。</p> <p>2-3. 統計学的解析の基礎(2回) [講義・演習・質疑応答] 変数の尺度、質的・量的データの要約方法、二変数間の関連について検討するための統計解析手法について理解する。</p> <p>4. クロス表分析 [講義・演習・質疑応答] 質的データと質的データの関連について検討するクロス表分析のやや高度な手法について理解する。</p> <p>5-6. 平均値の差の検定と分散分析(2回) [講義・演習・質疑応答] 量的データの群間比較を行う平均値の差の検定と分散分析のやや高度な手法について理解する。</p> <p>7. 相関と回帰 [講義・演習・質疑応答] 量的データと量的データの関連について検討する相関分析、回帰分析のやや高度な手法について理解する。</p> <p>8-9. 多変量解析(2回) [講義・演習・質疑応答] 多変量の関わる解析手法についてやや高度な手法について理解する。</p>		

	<p>10-11. エクセルを用いた統計処理(2回) [講義・演習・質疑応答] 模擬データを用い、エクセルを活用して統計解析を行う。</p> <p>12-14. SPSS ないし EZR を用いた統計処理(3回) [講義・演習・質疑応答] 模擬データを用い、SPSS・EZRを中心とした統計解析ソフトを用いた解析を行う。</p> <p>15. まとめ [講義・演習・質疑応答] 本講の全体について、総括する。 (フィードバック方法)課題などのフィードバックは講義時間内に行う。</p>
準備学習	<p>疫学や保健統計の学習は難解であり、親しみにくい領域であると思われる。分かりやすい解説とするので、復習に重点をおいた学習を心がけること。</p> <p>パソコンの基本的な操作、およびマイクロソフト社のワード、エクセル、パワーポイントの各アプリケーションの基本的な操作が可能であることが望ましい。</p> <p>(予習)</p> <p>1-15. 配布資料を参考に、当日予定の項目について事前に予備的な知識を得て、それぞれの日ごとに、十分に予習を行うこと(各日 30 分)。</p> <p>(復習)</p> <p>1-15. 配布資料なども参考に、周辺の領域も含め十分に復習すること(各日 60 分)。</p> <p>☆概ね週当たり 4 時間以上必要である。</p> <p>☆時間外学習時間(予習復習など)は 60 時間以上が必要であるため不足分は休暇などをを利用して復習しておくこと。</p>
評価方法	レポート(70%)、口頭試問(30%)
備考	この科目は 2 単位です。

科目名	統計学Ⅱ	授業コード	24N20042
代表教員	照屋 浩司	担当教員	
授業概要	<p>自然科学分野の研究において、研究方法・調査方法の決定や得られたデータを客観的に評価するためには、統計学的な手法を適切に利用することが重要である。本講では、集団のデータの取り扱いの基本的な考え方や手法について、リスク解析や多群の比較といったやや応用的な内容にまで踏み込んで解説と演習を行う。</p> <p>演習で用いる統計解析用アプリケーションとしては主として EZR の使用を予定している。</p>		
学位授与方針の関連 学習目標	<p>『学位授与方針との関連』</p> <p>(2) 専門領域における最新知識 看護ケアの質の向上を目指して、専門分野における最新知識を基に専門性の高い看護ケアを開発できる。</p> <p>(3) 専門領域における優れたマネジメント能力 社会のニーズに対応した看護実践の改革・向上に向けて、教育的・管理的リーダーシップを發揮し、組織的にマネジメントができる。</p> <p>(4) 先行研究を批判的に吟味できる能力 看護・保健領域における国内外の学術論文を、仮説の設定、研究デザイン、データ分析と解釈および考察について、批判的に吟味することができる。</p> <p>(5) 看護・保健領域における課題発見能力 看護・保健領域における課題を、学際的・国際的な視野での科学的思考と問題の本質を見抜く論理的思考、柔軟な視点を持って発見できる。</p> <p>(6) 研究遂行能力 学際的・国際的な視野を持って看護学における課題を自ら発見し、看護学を体系化するために、自立して研究を推進できる。</p> <p>『一般目標(GI0)』 自身の研究や文献の抄読に役立てる為に生物統計学のやや応用的な考え方や手法を理解する。</p> <p>『個別目標(SB0s)』            ①応用的な統計学的解析について修得する。            ②模擬データおよび実際のデータについて、必要な解析方法を選択、実施し、その解釈まで行うことができる。</p>		
授業計画	<p>1-2. 統計学的解析の基礎（2回）[講義・演習・質疑応答] 変数の尺度、質的・量的データの要約方法、二変数間の関連について検討するための統計解析手法について理解する。</p> <p>3-5. 多元配置分散分析と共分散分析（3回）[講義・演習・質疑応答] 分散共分散分析の基礎とやや高度な手法について理解する。</p> <p>6-8. 重回帰分析（3回）[講義・演習・質疑応答] 重回帰分析の基礎とやや高度な手法について理解する。</p> <p>9-11. 多重ロジスティック回帰分析（3回）[講義・演習・質疑応答] 多重ロジスティック回帰分析の基礎とやや高度な手法について理解する。</p> <p>12-14. カテゴリカルデータの分析（3回）[講義・演習・質疑応答]</p>		

	<p>ノンパラメトリックな検定の基礎とやや高度な手法について理解する。</p> <p>15.まとめ[講義・演習・質疑応答]</p> <p>本講の全体について、総括する。</p> <p>(フィードバック方法)課題などのフィードバックは講義時間内に行う。</p>
準備学習	<p>疫学や保健統計の学習は難解であり、親しみにくい領域であると思われる。分かりやすい解説とするので、復習に重点をおいた学習を心がけること。</p> <p>パソコンの基本的な操作、およびマイクロソフト社のワード、エクセル、パワーポイントの各アプリケーションの基本的な操作が可能であることが望ましい。</p> <p>(予習)</p> <p>1-15.配布資料を参考に、当日予定の項目について事前に予備的な知識を得て、それぞれの日ごとに、十分に予習を行うこと。(各日 30 分)</p> <p>(復習)</p> <p>1-15.配布資料なども参考に、周辺の領域も含め十分に復習すること。(各日 60 分)</p> <p>☆概ね週当たり 4 時間以上必要である。</p> <p>☆授業外学習時間(予習・復習など)は 60 時間必要であるため、不足分は休暇などをを利用して復習すること。</p>
評価方法	レポート(70%)、口頭試問(30%)
備考	この科目は 2 単位です。

科目名	特別研究 I	授業コード	24N2T1B1 / 24N2T1B2
代表教員	金子 多喜子	担当教員	
授業概要	学位論文作成に向けて、研究課題および方法を明確にし、自立した研究活動を展開する。		
学位授与方針の関連 学習目標	<p>『学位授与方針との関連』</p> <p>(1) 高い倫理観 生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理観を持ち、他者を尊重し、自己を律して、研究を遂行できる。</p> <p>(4) 先行研究を批判的に吟味できる能力 看護・保健領域における国内外の学術論文を、仮説の設定、研究デザイン、データ分析と解釈および考察について、批判的に吟味することができる。</p> <p>(5) 看護・保健領域における課題発見能力 看護・保健領域における課題を、学際的・国際的な視野での科学的思考と問題の本質を見抜く論理的思考、柔軟な視点を持って発見できる。</p> <p>(6) 研究遂行能力 学際的・国際的な視野を持って看護学における課題を自ら発見し、看護学を体系化するため、自立して研究を推進できる。</p> <p>『一般目標(GI0)』 研究課題および方法を明確にする。</p>		
授業計画	<p>1-8. 研究テーマの検討 [演習]      9-16. 先行研究の検討 [演習]      17-20. 研究方法論の作成 [演習]      21-30. 研究計画書の作成 [演習]</p> <p>(フィードバック方法)課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。</p>		
準備学習	<p>(予習)      1-30. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。      次回テーマに関してのデータ整理、検討し資料を作成すること。</p> <p>(復習)      1-30. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。</p> <p>※全ての回、予習は30分、復習は30分必要とする。      ☆概ね週当たり4時間以上必要である。      ☆時間外学習時間(予習復習など)は120時間以上が必要であるため不足分は休暇などをを利用して復習しておくこと。</p>		
評価方法	口頭試問(50%)、研究計画書(50%)		
備考	この科目は4単位です。		

科目名	特別研究Ⅱ	授業コード	24N2T2B1 / 24N2T2B2
代表教員	金子 多喜子	担当教員	
授業概要	特別研究Ⅰで作成された研究テーマに沿って、具体的な研究方法を計画立案していることを確認し、必要な倫理審査が受けられるように指導する。倫理審査承認後、実際の研究課題に対し、研究が適切に進めることができるよう指導を行う。また、継続的に研究に関連する最新文献をチェックしていく。		
学位授与方針の関連 学習目標	<p>『学位授与方針との関連』</p> <p>(1) 高い倫理観 生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理観を持ち、他者を尊重し、自己を律して、研究を遂行できる。</p> <p>(6) 研究遂行能力 学際的・国際的な視野を持って看護学における課題を自ら発見し、看護学を体系化するため、自立して研究を推進できる。</p> <p>『一般目標(GIO)』</p> <p>研究の進捗状況を当該年度の研究報告会において発表する。成績評価については、指導教授以外の評価を導入し、必要な助言を行う。なお、最終的な単位認定は指導教授が行う。</p>		
授業計画	<p>1-3. 研究計画の確認、再検討 [演習] 4-6. 研究方法の検討 [演習] 7-9. 文献検索 [演習] 10-12. フィールドワーク [演習] 13-15. プрезентーション [演習]</p> <p>(フィードバック方法)課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。</p>		
準備学習	<p>(予習) 1-15. 各回とも、それぞれのテーマに関する基礎的な事項を学習し直しておくこと。 次回テーマに関してのデータ整理、検討し資料を作成すること。</p> <p>(復習) 1-15. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。</p> <p>※全ての回、予習は30分、復習は30分必要とする。 ☆概ね週当たり4時間以上必要である。 ☆時間外学習時間(予習復習など)は60時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。</p>		
評価方法	口頭試問(70%)、プレゼンテーション(30%)		
備考	この科目は2単位です。		

科目名	特別研究Ⅲ	授業コード	24N2T3B1 / 24N2T3B2
代表教員	金子 多喜子	担当教員	

授業概要	特別研究Ⅲでは、特別研究Ⅱの指導過程において指摘された問題点に対し修正を行う。研究が順調に進行するよう指導していく。さらに論文作成に際し、研究結果の解釈などにつき十分に議論していく。
学位授与方針の関連 学習目標	<p>『学位授与方針との関連』</p> <p>(1) 高い倫理観 生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理観を持ち、他者を尊重し、自己を律して、研究を遂行できる。</p> <p>(6) 研究遂行能力 学際的・国際的な視野を持って看護学における課題を自ら発見し、看護学を体系化するため、自立して研究を推進できる。</p> <p>『一般目標(GIO)』</p> <p>特別研究Ⅱと同様に、研究の進捗状況を当該年度の研究報告において発表する。指導教授以外の評価を導入し、博士論文として十分な学術的価値を持ったものになるようにする。なお、最終的な単位認定は指導教授が行う。</p>
授業計画	<p>1-3. 研究内容の再検討、整理 [演習]</p> <p>4-6. 研究結果の分析と考察、討論 [演習]</p> <p>7-9. 論文構成、内容整理 [演習]</p> <p>10-12. 論文作成、討論 [演習]</p> <p>13-15. プレゼンテーション [演習]</p> <p>(フィードバック方法)課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。</p>
準備学習	<p>(予習)</p> <p>1-15. 各回とも、それぞれのテーマに関する基礎的な事項を学習し直しておくこと。 次回テーマに関してのデータ整理、検討し資料を作成すること。</p> <p>(復習)</p> <p>1-15. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。</p> <p>※全ての回、予習は30分、復習は30分必要とする。 ☆概ね週当たり4時間以上必要である。 ☆時間外学習時間(予習復習など)は60時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。</p>
評価方法	口頭試問(70%)、プレゼンテーション(30%)
備考	この科目は2単位です。

看護学専攻 博士後期課程

実践看護科学分野

## 看護学専攻博士後期課程（令和 5年度学則） 【実践看護科学分野】

### (1)高い倫理観

生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理観を持ち、他者を尊重し、自己を律して、研究を遂行できる。

### (2)専門領域における最新知識

看護ケアの質の向上を目指して、専門分野における最新知識を基に専門性の高い看護ケアを開発できる。

### (3)専門領域における優れたマネジメント能力

社会のニーズに対応した看護実践の改革・向上に向けて、教育的・管理的リーダーシップを發揮し、組織的にマネジメントができる。

### (4)先行研究を批判的に吟味できる能力

看護・保健領域における国内外の学術論文を、仮説の設定、研究デザイン、データ分析と解釈および考察について、批判的に吟味することができる。

### (5)看護・保健領域における課題発見能力

看護・保健領域における課題を、学際的・国際的な視野での科学的思考と問題の本質を見抜く論理的思考、柔軟な視点を持って発見できる。

### (6)研究遂行能力

学際的・国際的な視野を持って看護学における課題を自ら発見し、看護学を体系化するために、自立して研究を推進できる。

専門分野	授業科目	単位認定者 (R 7)	単位数	開講時期		社会人特別選抜		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)
				春	秋	夜間	土曜						
実践看護科学	成人看護学（急性期）A	加賀谷 聰子	4	○	○	○	○	★	★	★			
	成人看護学（急性期）B	加賀谷 聰子	2		○	○	○	★	★				
	成人看護学（慢性期）A	中島 恵美子	4	○	○	○	○	★	★				
	成人看護学（慢性期）B	中島 恵美子	2		○	○	○	★	★				
	高齢者看護学	岩崎 孝子	4	○	○	○	×	★	★				
	小児看護学A	米山 雅子	4	○	○	○	○	★	★	★	★	★	★
	小児看護学B	藤田 千春	4	○	○	○	○	★	★		★	★	
	精神看護学A	浅沼 奈美	4	○	○	○	×	★	★	★	★	★	★
	精神看護学B	浅沼 奈美	2	○		○	×	★	★	★	★	★	★
	ウィメンズヘルス看護学A	勝又 里織	4	○	○	○	×	★	★	★	★	★	★
	ウィメンズヘルス看護学B	佐々木 裕子	4	○	○	○	×	★	★	★	★	★	
	地域看護学A	大木 幸子	4	○	○	×	○	★	★	★		★	
	地域看護学B	大木 幸子	2	○		×	○	★	★				

## 【看護学専攻 実践看護科学分野 博士後期課程 履修モデル】

### ★成人看護の教育・研究者を目指す大学院生の履修例

- ・主科目として、成人看護学（慢性期）A、B、ジャーナルクラブⅠ、Ⅱ、特別研究Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、の計18単位を履修する。
- ・副科目として、基礎看護科学に配置されている統計学Ⅰ、Ⅱを計4単位を履修する。
- ・上記のうち、統計学Ⅱと成人看護学（慢性期）Bを除いて必修科目である。

修了要件 (20単位以上)							
科目と単位	1セメスター	2セメスター	3セメスター	4セメスター	5セメスター	6セメスター	計
主科目	専門分野講義科目 成人看護学（慢性期）A (通年) 4	成人看護学（慢性期）A (通年) 4		成人看護学（慢性期）B 2			22
	ジャーナルクラブ		ジャーナルクラブⅠ 2		ジャーナルクラブⅡ 2		
	特別研究 特別研究 I (通年) 2	特別研究 I (通年) 2		特別研究 II 2		特別研究III 2	
	小計	6	6	2	4	2	2
副科目	他分野科目 統計学Ⅰ 2	統計学Ⅱ 2					4
	小計	2	2	0	0	0	0
合計	8	8	2	4	2	2	26

科目名	成人看護学（急性期）A	授業コード	24N30011/ 24N30012
代表教員	加賀谷 聰子	担当教員	
授業概要	急性期にある患者と家族に生じている現象を多面的に探究し、関連する理論や概念を分析し、看護支援技術の開発と体系化をはかるための研究を行い、国内外の学術誌に発表し、自立して研究できる能力を修得する。		
学位授与方針の関連 学習目標	<p>『学位授与方針との関連』</p> <p>(2) 専門領域における最新知識 看護ケアの質の向上を目指して、専門分野における最新知識を基に専門性の高い看護ケアを開発できる。</p> <p>(3) 専門領域における優れたマネジメント能力 社会のニーズに対応した看護実践の改革・向上に向けて、教育的・管理的リーダーシップを發揮し、組織的にマネジメントができる。</p> <p>(4) 先行研究を批判的に吟味できる能力 看護・保健領域における国内外の学術論文を、仮説の設定、研究デザイン、データ分析と解釈および考察について、批判的に吟味することができる。</p> <p>『一般目標(GIO)』</p> <p>① 関心領域に関連した理論や概念を分析する。更にケア対象者の看護支援方法開発に向けた実践例、研究例よりその領域における研究課題を明らかにする。</p> <p>② 急性期看護に関する研究プロジェクトに参加し、その準備と研究過程を学ぶ。</p> <p>③ 国内外の学会および学術誌に発表し、研究者としての資質を養う。</p>		
授業計画	<p>1-10. 治療を受ける患者および家族のケアに関する研究の国際的動向からわが国の特徴と課題の明確化 [演習] 先行研究をクリティイークし、国際的動向を踏まえてわが国の特徴と課題を明確化する。</p> <p>11-15. 関心領域に関連した理論や概念の分析 [演習] 関心領域に関連した理論や概念分析について学ぶ。</p> <p>16-20. 関心領域のケア対象者の看護支援方法開発に向けた検討と課題の明確化 [演習] 各自の関心領域における看護支援方法の開発に向け実践例、研究例の検討を行い、課題を明確にする。</p> <p>21-24. 急性期看護に関する研究プロジェクトの準備 [演習] 急性期看護に関する研究プロジェクトの準備とその研究過程から学ぶ。</p> <p>25-30. 国外の学会および学術誌への論文投稿の進め方 [演習] 国内外の学会発表および学術誌への論文投稿の進め方について学ぶ。 (フィードバック方法)課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。</p>		
準備学習	<p>(予習) 1-30. 各回ともそれぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。 また、次回のテーマに関してのデータ整理、検討を行い資料を作成すること。</p> <p>(復習) 1-30. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。</p> <p>※全ての回、予習は 60 分、復習は 60 分必要とする。</p> <p>☆概ね週当たり 4 時間以上必要である。</p>		

	☆時間外学習時間(予習復習など)は 120 時間以上が必要であるため不足分は休暇などをを利用して復習しておくこと。
評価方法	口頭試問(50%)、プレゼンテーション(50%)
備考	この科目は 4 単位です。

科目名	成人看護学（急性期）B	授業コード	24N30022
代表教員	加賀谷 聰子	担当教員	加賀谷 聰子
授業概要	急性期にある患者および家族の体験を明らかにし、関連する理論や概念および看護支援技術の開発と体系化について、国内外の研究から学ぶ。		
学位授与方針の関連 学習目標	<p>『学位授与方針との関連』</p> <p>(2) 専門領域における最新知識 看護ケアの質の向上を目指して、専門分野における最新知識を基に専門性の高い看護ケアを開発できる。</p> <p>(3) 専門領域における優れたマネジメント能力 社会のニーズに対応した看護実践の改革・向上に向けて、教育的・管理的リーダーシップを發揮し、組織的にマネジメントができる。</p> <p>『一般目標(GIO)』 関心領域に基づくケア対象者の看護支援方法開発に向けた実践例、研究例よりその領域における研究課題を明らかにする。</p>		
授業計画	<p>1-5. 治療を受ける患者および家族のケアに関する研究の国際的動向からわが国の特徴と課題の明確化 [演習] 関心領域の先行研究を検討し、国際的動向を踏まえてわが国の特徴や課題を明確化する。</p> <p>6-10. 関心領域の理論や概念、ケア対象者の看護支援方法開発に向けた検討 [演習] 関心領域に関連した理論や概念を学び、看護支援方法開発に向けた実践例や研究例などを検討する。</p> <p>11-15. 研究課題の明確化 [演習] 1 - 10回までの検討結果をもとに、研究課題を明確化していく。 (フィードバック方法)課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。</p>		
準備学習	<p>(予習) 1-15. 各回ともそれぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。 また、次回のテーマに関してのデータ整理、検討を行い資料を作成すること。</p> <p>(復習) 1-15. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。</p> <p>※全ての回、予習は60分、復習は30分必要とする。 ☆概ね週当たり4時間以上必要である。 ☆時間外学習時間(予習復習など)は60時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。</p>		
評価方法	口頭試問(50%)、プレゼンテーション(50%)		
備考	この科目は2単位です。		

科目名	成人看護学（慢性期）A	授業コード	24N30031 / 24N30032
代表教員	中島 恵美子	担当教員	
授業概要	慢性期にある患者と家族の体験を多面的に探究し、関連する理論や概念を分析し、看護支援技術の開発と体系化をはかるための研究を行い、国内外の学術誌に発表し、自立して研究できる能力を修得する。		
学位授与方針の関連 学習目標	<p>『学位授与方針との関連』</p> <p>(2) 専門領域における最新知識 看護ケアの質の向上を目指して、専門分野における最新知識を基に専門性の高い看護ケアを開発できる。</p> <p>(3) 専門領域における優れたマネジメント能力 社会のニーズに対応した看護実践の改革・向上に向けて、教育的・管理的リーダーシップを發揮し、組織的にマネジメントができる。</p> <p>『一般目標(GIO)』</p> <p>① 関心領域に基づくケア対象者の看護支援方法開発に向けた実践例、研究例よりその領域における研究課題を明らかにする。</p> <p>② がん看護およびクリティカルケア看護に関する研究プロジェクトに参加し、その準備と研究過程を学ぶ。</p> <p>③ 国内外の学会および学術誌に発表し研究者としての資質を養う。</p>		
授業計画	<p>1-10. がん治療を受ける患者および家族のケアに関する研究の国際的動向からわが国の特長と課題の明確化を行う。[演習]</p> <p>11-15. 各自の関心領域に関連した理論や概念分析を行う。おけるケア対象者の看護支援方法開発に向けた実践例、研究例の検討を行う。[演習]</p> <p>16-20. 関心領域の看護支援方法開発に向けた課題の明確化を行う。[演習]</p> <p>21-24. がん看護に関する研究プロジェクトの準備とその研究過程から学ぶ。[演習]</p> <p>25-30. 国内外の学会および学術誌への論文などの作成・発表の進め方について学ぶ。 [演習]</p> <p>以上の内容を30回で実施する。</p> <p>(フィードバック方法)課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。</p>		
準備学習	<p>(予習)</p> <p>1-30. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておく。 また、次回テーマに関してのデータ整理、検討し資料を作成すること。</p> <p>(復習)</p> <p>1-30. 講義終了後は内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。</p> <p>☆概ね週当たり4時間以上必要である。</p> <p>☆時間外学習時間(予習復習など)は120時間以上が必要であるため不足分は休暇などをを利用して復習しておくこと。</p>		
評価方法	口頭試問(50%)、プレゼンテーション(50%)		
備考	この科目は4単位です。		

科目名	成人看護学（慢性期）B	授業コード	24N30042
代表教員	中島 恵美子	担当教員	中島 恵美子
授業概要	慢性期にある対象者および家族の体験を明らかにし、主としてがん看護、緩和ケア、セルフケアマネジメントに関する看護支援技術の開発と体系化について、国内外の研究から学ぶ。		
学位授与方針の関連 学習目標	<p>《学位授与方針との関連》</p> <p>(2) 専門領域における最新知識 看護ケアの質の向上を目指して、専門分野における最新知識を基に専門性の高い看護ケアを開発できる。</p> <p>(3) 専門領域における優れたマネジメント能力 社会のニーズに対応した看護実践の改革・向上に向けて、教育的・管理的リーダーシップを發揮し、組織的にマネジメントができる。</p> <p>《一般目標(GIO)》 慢性期看護を中心に、関心分野に基づくケア対象者の看護支援方法開発に向けた実践例、研究例よりその領域における緩急課題を明らかにする。</p>		
授業計画	<p>1-5. 治療を受ける患者および家族ケアに関する研究の国際的動向から我が国の特徴と課題の明確化 [演習]</p> <p>6-10. 各自の関心領域におけるケア対象者の看護支援方法開発に向けた実践例、研究例の検討 [演習]</p> <p>11-15. 1-10回までの検討結果より研究課題の明確化 [演習] (フィードバック方法)課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。</p>		
準備学習	<p>(予習) 1-15. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を再学習しておくこと。 また、次回のテーマに関してのデータ整理、検討を行い、プレゼン資料を作成すること。</p> <p>(復習) 1-15. 講義後は学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。 ☆概ね週当たり 4 時間以上必要である。 ☆時間外学習時間(予習復習など)は 60 時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。</p>		
評価方法	口頭試問(50%)、プレゼンテーション(50%)		
備考	この科目は 2 単位です。		

科目名	高齢者看護学	授業コード	24N30051 / 24N30052
代表教員	岩崎 孝子	担当教員	岩崎 孝子
授業概要	人のライフサイクルにおける最終段階の老年期にある対象の理解、健康障害や治療の特徴を踏まえた看護支援の提供、療養生活への支援等、高齢者看護学領域における主要なテーマについて、研究論文や単行本等の文献抄読を通じ深く探究する。老年期にある人と家族を中心とした健康と生活を支える看護理論、およびエビデンスに基づく看護のあり方を探求する。		
学位授与方針の関連 学習目標	<p>『学位授与方針との関連』</p> <p>(1) 高い倫理観 生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理観を持ち、他者を尊重し、自己を律して、研究を遂行できる。</p> <p>(2) 専門領域における最新知識 看護ケアの質の向上を目指して、専門分野における最新知識を基に専門性の高い看護ケアを開発できる。</p> <p>『一般目標(GI0)』</p> <p>①関心領域に基づくケア対象者の看護支援方法開発に向けた実践例、研究例よりその領域における研究課題と制度／看護支援方法の開発方法を明らかにする。</p> <p>②国内外の学会および学術誌に発表し、研究者としての資質を養う。</p> <p>『個別目標(SB0s)』</p> <p>①自ら関心のあるテーマに沿って国内外の高齢者看護学の動向とその課題について説明できる。</p> <p>②高齢者看護学の動向と課題をもとに、自らの看護実践における体験も踏まえて、研究課題を明確にできる。</p>		
授業計画	<p>1. 高齢者看護学ガイド [講義] 高齢者看護学研究の方法論・特徴と履修者の研究テーマの 高齢者看護学における位置づけ</p> <p>2-3. 高齢者看護学の研究動向 1 [演習] 高齢者の ADL・身体機能評価とその特徴に関する国内外の文献レビューと討議</p> <p>4-5. 高齢者看護学の研究動向 2 [演習] 高齢者の心理的側面・ソーシャルサポート・家族システムに関する国内外の文献レビューと討議</p> <p>6-7. 高齢者看護学の研究動向 3 [演習] 認知症ケアと家族支援に関する国内外の文献レビューと討議</p> <p>8-9. 高齢者看護学の研究動向 4 [演習] フレイル、介護予防に関する国内外の文献レビューと討議</p> <p>10-11. 高齢者看護学の研究動向 5 [演習] 地域包括ケアシステムにおける高齢者的心身機能や QOL の維持・向上に関する国内外の文献レビューと討議</p> <p>12-15. 各自の関心領域におけるケア対象者の看護支援方法開発に向けた実践例、研究例の検討を行う。[演習]</p> <p>16-20. 12-15 回の検討結果を踏まえた研究課題の明確化 [演習]</p> <p>21-25. 研究課題を明らかにするための研究手法とその研究例研究技法の修得 [演習]</p>		

	<p>26-30. 国内外の学会発表、および学術誌への論文投稿への準備【演習】      (フィードバック方法) 課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。</p>
準備学習	<p>(予習)      1-30. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。      次回テーマに関してのデータ整理、検討し資料を作成すること。</p> <p>(復習)      1-30. 講義の内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。</p> <p>※全ての回、予習は30分、復習は30分必要とする。</p> <p>☆概ね週当たり4時間以上必要である。</p> <p>☆時間外学習時間(予習復習など)は60時間以上が必要であるため不足分は休暇などをを利用して復習しておくこと。</p>
評価方法	プレゼンテーション・口頭試問(50%)、レポート(50%)
備考	この科目は4単位です。

科目名	小児看護学A	授業コード	24N30061 / 24N30062
代表教員	米山 雅子	担当教員	
授業概要	小児看護学領域で重要と考えられる諸理論、概念を概観し分析する。関連領域の研究のクリティックを行い、小児看護学における研究の動向と課題を探求する。子どもと家族の健康にかかわる諸現象をとらえ明らかにするための研究方法を探求する。理論や概念の分析、クリティックを通して、自らの研究課題を明確にし探求していく能力を養う。		
学位授与方針の関連 学習目標	<p>『学位授与方針との関連』</p> <p>(1) 高い倫理観 生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理観を持ち、他者を尊重し、自己を律して、研究を遂行できる。</p> <p>(2) 専門領域における最新知識 看護ケアの質の向上を目指して、専門分野における最新知識を基に専門性の高い看護ケアを開発できる。</p> <p>(3) 専門領域における優れたマネジメント能力 社会のニーズに対応した看護実践の改革・向上に向けて、教育的・管理的リーダーシップを發揮し、組織的にマネジメントができる。</p> <p>(4) 先行研究を批判的に吟味できる能力 看護・保健領域における国内外の学術論文を、仮説の設定、研究デザイン、データ分析と解釈および考察について、批判的に吟味することができる。</p> <p>(5) 看護・保健領域における課題発見能力 看護・保健領域における課題を、学際的・国際的な視野での科学的思考と問題の本質を見抜く論理的思考、柔軟な視点を持って発見できる。</p> <p>(6) 研究遂行能力 学際的・国際的な視野を持って看護学における課題を自ら発見し、看護学を体系化するため、自立して研究を推進できる。</p> <p>『一般目標(GIO)』</p> <p>研究方法、小児看護学領域に関連する諸理論や概念について理解するとともに、関心ある現象に関する研究の動向や課題を探求する。</p> <p>『個別目標(SB0s)』</p> <p>①研究プロセスを概観し、さまざまな研究方法の特徴とクリティックのガイドラインについて述べることができる。</p> <p>②関心領域の研究についてクリティックすることができる。</p> <p>③小児看護学関連の諸理論、概念について理解し、分析することができる。</p>		

授業計画	<p>1-4. 研究プロセスの概観：質的研究 [プレゼンテーション・ディスカッション] 質的研究の特徴とクリティックのガイドラインについて学ぶ。</p> <p>5-9. 研究プロセスの概観：量的研究 [プレゼンテーション・ディスカッション] 量的研究の特徴とクリティックのガイドラインについて学ぶ。</p> <p>10-13. 概念分析とサブストラクション [プレゼンテーション・ディスカッション] 概念分析、およびサブストラクションについて学ぶ。</p> <p>14-17. 看護の知識構築に関するサイエンスの歴史と哲学 [プレゼンテーション・ディスカッション] サイエンスの歴史と哲学を学ぶ意義、哲学の流れを概観する。</p> <p>18-21. 看護の歴史と看護理論 [プレゼンテーション・ディスカッション] 理論について学習し、関心ある理論の分析を行う。</p> <p>22-25. 小児看護学領域の研究の動向と課題の探求 [プレゼンテーション・ディスカッション] 関心のある現象に関する量的および質的研究を熟読し、クリティックする。</p> <p>26-30. 概念や理論の探求 [プレゼンテーション・ディスカッション] 小児看護学に関する諸理論の中から興味のあるものを選択し、探求する。関心のある現象に関する概念や理論について分析する。 (フィードバック方法) 課題、プレゼンテーションに対するフィードバックは講義内に行う。</p>
準備学習	<p>(予習)</p> <p>1-30. 各回とも、それぞれのテーマに関する基礎的な事項を学習し直しておくこと。 次回テーマに関してのデータ整理、検討し資料を作成すること。</p> <p>(復習)</p> <p>1-30. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。</p> <p>※全ての回、予習は 30 分、復習は 30 分必要とする。</p> <p>☆概ね週当たり 4 時間以上必要である。</p> <p>☆時間外学習時間(予習復習など)は 120 時間以上が必要であるため不足分は休暇などをを利用して復習すること。</p>
評価方法	プレゼンテーション・口頭試問(50%)、レポート(50%)
備考	この科目は 4 単位です。

科目名	小児看護学B	授業コード	24N30071 / 24N30072
代表教員	藤田 千春	担当教員	
授業概要	小児保健、家族支援、小児看護学に関わる専門職者の研究に必要となる理論や概念、研究デザインを概観し、研究課題を抽出する能力を養う。また、研究を遂行するために必要なスキルを修得する。		
学位授与方針の関連学習目標	<p>《学位授与方針との関連》</p> <p>(1) 高い倫理観 生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理観を持ち、他者を尊重し、自己を律して研究を遂行できる。</p> <p>(2) 専門領域における最新知識 看護ケアの質の向上を目指して、専門分野における最新知識を基に専門性の高い看護ケアを開発できる。</p> <p>(3) 専門領域における優れたマネジメント能力 社会のニーズに対応した看護実践の改革・向上に向けて、教育的・管理的リーダーシップを發揮し、組織的にマネジメントができる。</p> <p>(4) 先行研究を批判的に吟味できる能力 看護・保健領域における国内外の学術論文を、仮説の設定、研究デザイン、データ分析と解釈及び考察について、批判的に吟味することができる。</p> <p>(5) 看護・保健領域における課題発見能力 看護・保健領域における課題を、学際的・国際的な視野での科学的思考と問題の本質を見抜く論理的思考、柔軟な視点を持って発見できる。</p> <p>《一般目標(GI0)》 子どもと家族の健康支援に関する課題を捉え、支援する実践能力と研究遂行のための基本的なスキルを身につけることができる。</p> <p>《個別目標(SB0s)》</p> <p>①小児保健、小児看護学における課題を文献レビューやフィールドワークを通して明らかにできる。</p> <p>②研究を遂行する際の具体的な研究手法としてのデータ収集方法、分析方法について理解し、助言を得ながら実践できる。</p>		
授業計画	<p>1. ガイダンス 授業の進め方について説明 [講義・質疑応答]</p> <p>2-8. 子どもと家族に関する理論について：ピアジェ、エリクソン、マーラー、ボウルビィ、家族発達理論、家族システム理論、家族発達理論、カルガリーファミリー・セメント・介入モデル [演習]</p> <p>9-10. 子どものQOLと尺度の活用：QOL尺度を使った研究論文の抄読 [演習]</p> <p>11-15. 研究方法の理解：概念分析、質的研究、量的研究、ミックスメソッド、統計ソフト操作方法の学習 子どもを対象にした研究の倫理的配慮 [講義・プレゼンテーション・ディスカッション] [演習]</p> <p>16-18. 文献クリティック、文献検討：自身の関心のある内容で実施、研究課題の周辺を概観 [演習]</p> <p>19-21. 発達障害児とその家族支援と研究動向：ペアレントトレーニングの実際、論文</p>		

	<p>抄読　[演習]</p> <p>22-26. アレルギー疾患患児とその家族への支援:エピペンの演習、論文抄読 [演習]</p> <p>27-30. 研究課題の明確化と研究計画書の作成　[演習]</p> <p>文献検討、ディスカッションを通して研究課題を明確にし、研究計画書を作成する。 (フィードバック方法)　課題・プレゼンに対するフィードバックは講義内に行う。</p>
準備学習	<p>(予習)</p> <p>1-30. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。 次回テーマに関してのデータ整理、検討し資料を作成すること。</p> <p>(復習)</p> <p>1-30. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。</p> <p>※全ての回、予習は30分、復習は30分必要とする。</p> <p>☆概ね週当たり4時間以上必要である。</p> <p>☆時間外学習時間(予習復習など)は60時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習すること。</p>
評価方法	プレゼンテーション・口頭試問(50%)、レポート(50%)
備考	この科目は4単位です。

科目名	精神看護学A	授業コード	24N30081 / 24N30082
代表教員	浅沼 奈美	担当教員	浅沼 奈美
授業概要	精神看護における対象を多面的に探究し、関連する理論や概念を分析し、看護支援技術の開発と体系化をはかるための研究を行い、国内外の学術誌に発表し、自立して研究できる能力を修得する。		
学位授与方針の関連 学習目標	<p>『学位授与方針との関連』</p> <p>(1) 高い倫理観 生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理観を持ち、他者を尊重し、自己を律して、研究を遂行できる。</p> <p>(2) 専門領域における最新知識 看護ケアの質の向上を目指して、専門分野における最新知識を基に専門性の高い看護ケアを開発できる。</p> <p>(3) 専門領域における優れたマネジメント能力 社会のニーズに対応した看護実践の改革・向上に向けて、教育的・管理的リーダーシップを發揮し、組織的にマネジメントができる。</p> <p>(4) 先行研究を批判的に吟味できる能力 看護・保健領域における国内外の学術論文を、仮説の設定、研究デザイン、データ分析と解釈および考察について、批判的に吟味することができる。</p> <p>(5) 看護・保健領域における課題発見能力 看護・保健領域における課題を、学際的・国際的な視野での科学的思考と問題の本質を見抜く論理的思考、柔軟な視点を持って発見できる。</p> <p>(6) 研究遂行能力 学際的・国際的な視野を持って看護学における課題を自ら発見し、看護学を体系化するため、自立して研究を推進できる。</p> <p>『一般目標(GIO)』</p> <p>① 関心領域に関連した理論や概念を分析する。さらにケア対象者の看護支援方法開発に向けた実践例、研究例よりその領域における研究課題を明らかにする。</p> <p>② 精神看護に関する研究プロジェクトに参加し、その準備と研究課程を学ぶ。</p> <p>③ 国内外の学会および学術誌に発表し、研究者としての資質を養う。</p>		
授業計画	<p>1-10 精神看護の対象となる個人や集団（患者および家族を含む）のケアに関する研究の国際的動向から我が国の特徴と課題の明確化を行う。〔演習〕</p> <p>11-15 関心領域に関連した理論や概念や分析について学ぶ。〔演習〕</p> <p>16-20 関心領域におけるケア対象者の看護支援方法開発に向けた実践例、研究例の検討と課題を明確化する。〔演習〕</p> <p>21-24 精神看護に関する研究プロジェクトの準備とその研究課程から学ぶ。〔演習〕</p> <p>25-30 国内外の学会および、学術誌への論文作成・発表の仕方について学ぶ。〔演習〕</p> <p>以上の内容を30回で実施する。 (フィードバック方法)課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。</p>		

準備学習	<p>(予習) 1-30. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。 次回テーマに関してのデータ整理、検討し資料を作成すること。</p> <p>(復習) 1-30. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。 ☆概ね週当たり 4 時間以上必要である。 ☆時間外学習時間(予習復習など)は 120 時間以上が必要であるため不足分は休暇などをを利用して復習しておくこと。</p>
評価方法	口頭試問(50%)、プレゼンテーション(50%)
備考	この科目は 4 単位です。

科目名	精神看護学B	授業コード	24N30091
代表教員	浅沼 奈美	担当教員	浅沼 奈美
授業概要	精神看護の対象者の体験を明らかにし、関連する理論や概念および看護支援技術の開発を体系化について、国内外の研究から学ぶ。		
学位授与方針の関連 学習目標	<p>『学位授与方針との関連』</p> <p>(1) 高い倫理観 生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理観を持ち、他者を尊重し、自己を律して、研究を遂行できる。</p> <p>(2) 専門領域における最新知識 看護ケアの質の向上を目指して、専門分野における最新知識を基に専門性の高い看護ケアを開発できる。</p> <p>(3) 専門領域における優れたマネジメント能力 社会のニーズに対応した看護実践の改革・向上に向けて、教育的・管理的リーダーシップを發揮し、組織的にマネジメントができる。</p> <p>(4) 先行研究を批判的に吟味できる能力 看護・保健領域における国内外の学術論文を、仮説の設定、研究デザイン、データ分析と解釈および考察について、批判的に吟味することができる。</p> <p>(5) 看護・保健領域における課題発見能力 看護・保健領域における課題を、学際的・国際的な視野での科学的思考と問題の本質を見抜く論理的思考、柔軟な視点を持って発見できる。</p> <p>(6) 研究遂行能力 学際的・国際的な視野を持って看護学における課題を自ら発見し、看護学を体系化するため、自立して研究を推進できる。</p> <p>『一般目標(GI0)』</p> <p>精神看護領域における、关心分野の対象者の看護支援方法開発に向けた実践例、研究例より、その領域における研究課題を明らかにする。</p>		
授業計画	<p>1-5 精神看護の対象者のケアに関する研究の国際的動向から我が国の特徴と課題の明確化を行う。〔演習〕</p> <p>6-10 関心領域に関連した理論や概念、ケア対象者の看護支援方法開発に向けた実践例、研究例を検討する。〔演習〕</p> <p>11-15 10回までの検討結果をもとに研究課題を明確化する。〔演習〕</p> <p>(フィードバック方法)課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。</p>		
準備学習	<p>(予習)</p> <p>1-15. 各回ともそれぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。 次回テーマに関してのデータ整理、検討し資料を作成すること。</p> <p>(復習)</p> <p>1-15. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実</p>		

	<p>施すること。</p> <p>☆概ね週当たり 4 時間以上必要である。</p> <p>☆時間外学習時間(予習復習など)は 60 時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。</p>
評価方法	口頭試問(50%)、プレゼンテーション (50%)
備考	この科目は 2 単位です。

科目名	ウィメンズヘルス看護学A	授業コード	24N30101 / 24N30102
代表教員	勝又 里織	担当教員	
授業概要	母性看護学、助産学領域における健康課題について医学・生理学的な特徴、対象者とその家族の体験を明らかにする。また、現状の施策、制度の歴史的／文化的な背景と課題、新たな制度および専門的ケア開発に関する国内外の動向を実践例、研究例から理解する。さらに母性看護学、助産学領域における看護支援技術の開発と体系化をはかるための研究を行い、国内外の学術誌に発表し、自立して研究するための基礎的能力を修得する。		
学位授与方針の関連 学習目標	<p>『学位授与方針との関連』</p> <p>(1) 高い倫理観 生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理観を持ち、他者を尊重し、自己を律して、研究を遂行できる。</p> <p>(2) 専門領域における最新知識 看護ケアの質の向上を目指して、専門分野における最新知識を基に専門性の高い看護ケアを開発できる。</p> <p>(3) 専門領域における優れたマネジメント能力 社会のニーズに対応した看護実践の改革・向上に向けて、教育的・管理的リーダーシップを發揮し、組織的にマネジメントができる。</p> <p>(4) 先行研究を批判的に吟味できる能力 看護・保健領域における国内外の学術論文を、仮説の設定、研究デザイン、データ分析と解釈および考察について、批判的に吟味することができる。</p> <p>(5) 看護・保健領域における課題発見能力 看護・保健領域における課題を、学際的・国際的な視野での科学的思考と問題の本質を見抜く論理的思考、柔軟な視点を持って発見できる。</p> <p>(6) 研究遂行能力 学際的・国際的な視野を持って看護学における課題を自ら発見し、看護学を体系化するために、自立して研究を推進できる。</p> <p>『一般目標(GIO)』</p> <p>①母性看護学、助産学領域における健康課題について医学生理学的な特徴、対象者とその家族の問題状況の特性、専門的ケア提供を行うための組織、制度の背景と課題を理解する。</p> <p>②関心領域に基づくケア対象者の看護支援方法開発に向けた実践例、研究例よりその領域における研究課題と制度／看護支援方法の開発方法を明らかにする。</p> <p>③国内外の学会および学術誌に発表し、研究者としての資質を養う。</p>		

授業計画	<p>1-10. 女性の性と生殖に関する健康課題、胎児・新生児の健康課題に関する研究の国際的動向および日本の課題 [演習]</p> <p>11-15. 受講者の関心領域におけるケア対象者看護支援方法開発に向けた実践例、研究例の検討 [演習]</p> <p>16-20. 11-15回の検討結果を踏まえた研究課題の明確化 [演習]</p> <p>21-25. 研究課題を明らかにするための研究手法とその研究例研究技法の修得 [演習]</p> <p>26-30. 国内外の学会発表、および学術誌への論文投稿への準備 [演習] (フィードバック方法)課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。</p>
準備学習	<p>(予習) 1-30. 各回とも、その回の発表者は授業前日までにレジメと主な参考文献コピーを参加者全員に配布し、参加者は配付資料および文献を熟読する。</p> <p>(復習) 1-30. 授業でのコメントをもとに、発表者は不足している点について補足し、参加者に追加資料を配付する。参加者は授業内容をまとめ、理解が不足している点について補足学習を行う。</p> <p>☆概ね週当たり 4 時間以上必要である。 ☆時間外学習時間(予習復習など)は 60 時間以上が必要であるため不足分は休暇などをを利用して復習しておくこと。</p>
評価方法	口頭試問(50%)、プレゼンテーション(50%)
備考	この科目は 4 単位です。

科目名	ウィメンズヘルス看護学 B	授業コード	24N30111 / 24N30112
代表教員	佐々木 裕子	担当教員	
授業概要	ウィメンズヘルス領域における研究方法論および研究論文のクリティックを通して、ウィメンズヘルス看護学における健康課題を多角的に捉え、看護援助方法を開発するための理論と概念を探求する。さらに、ウィメンズヘルス領域における看護援助方法の開発と体系化を図るために研究を行い、結果を公表し、自立して研究するための基礎的能力を養う。		
学位授与方針の関連 学習目標	<p>『学位授与の方針との関連』</p> <p>(1) 高い倫理観 生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理観を持ち、他者を尊重し、自己を律して、研究を遂行できる。</p> <p>(2) 専門領域における最新知識 看護ケアの質の向上を目指して、専門分野における最新知識を基に専門性の高い看護ケアを開発できる。</p> <p>(3) 専門領域における優れたマネジメント能力 社会のニーズに対応した看護実践の改革・向上に向けて、教育的・管理的リーダーシップを發揮し、組織的にマネジメントができる。</p> <p>(4) 先行研究を批判的に吟味できる能力 看護・保健領域における国内外の学術論文を、仮説の設定、研究デザイン、データ分析と解釈および考察について、批判的に吟味することができる。</p> <p>(5) 看護・保健領域における課題発見能力 看護・保健領域における課題を、学際的・国際的な視野での科学的思考と問題の本質を見抜く論理的思考、柔軟な視点を持って発見できる。</p> <p>『一般目標(GIO)』</p> <p>① ウィメンズヘルスならびに周産期の看護領域に関連のある理論や概念を説明できる。</p> <p>② ウィメンズヘルス研究、周産期の看護研究に関連のある研究方法論の概要が説明できる。</p> <p>③ ウィメンズヘルス看護の援助方法開発例から、開発方法と研究課題を明らかにする。</p> <p>④ ウィメンズヘルスに関連のある国内外の学会および論文にて公表し、研究者としての資質を養う。</p>		
授業計画	<p>1-4 ウィメンズヘルスと関係理論（ヘルスプロモーション、ジェンダー、女性の意思決定、移行理論）[講義・質疑応答・ディスカッション]</p> <p>5-6 ウィメンズヘルスと研究方法論 [講義・質疑応答・ディスカッション]</p> <p>7-10 ウィメンズヘルスに関連した健康課題と研究の動向 [演習]</p> <p>11-15. 受講者の関心領域における看護援助方法開発に向けた実践例、研究例の検討 [演習]</p> <p>16-20. 11-15 回の検討結果を踏まえた研究課題の明確化 [演習]</p> <p>21-25. 研究課題を明らかにするための研究手法とその研究例、研究技法の修得 [演習]</p> <p>26-30. 国内外の学会発表、および学術誌への論文投稿への準備 [演習] (フィードバック方法)課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。</p>		

準備学習	<p>(予習) 1-30. 各回とも、その回の発表者は授業前日までにレジメと主な参考文献コピーを参加者全員に配布し、参加者は配付資料および文献を熟読する。</p> <p>(復習) 1-30. 授業でのコメントをもとに、発表者は不足している点について補足し、参加者に追加資料を配付する。参加者は授業内容をまとめ、理解が不足している点について補足学習を行う。</p> <p>☆概ね週当たり 4 時間以上必要である。</p> <p>☆時間外学習時間(予習復習など)は 120 時間以上が必要であるため不足分は休暇などをを利用して復習しておくこと。</p>
評価方法	レポート(50%)、プレゼンテーション(50%)
備考	この科目は 4 単位です。

科目名	地域看護学A	授業コード	24N30121 / 24N30122
代表教員	大木 幸子	担当教員	
授業概要	受講生が各自のフィールドにおいて地域看護領域に関するテーマを設定し、個人、家族、集団、地域への看護の特質とその支援技術について討議し、考察を深めるとともに、それらの研究課題を設定し、研究を遂行する能力を修得する。		
学位授与方針の関連学習目標	<p>《学位授与方針との関連》</p> <p>(1) 高い倫理観 生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理観を持ち、他者を尊重し、自己を律して、研究を遂行できる。</p> <p>(2) 専門領域における最新知識 看護ケアの質の向上を目指して、専門分野における最新知識を基に専門性の高い看護ケアを開発できる。</p> <p>(3) 専門領域における優れたマネジメント能力 社会のニーズに対応した看護実践の改革・向上に向けて、教育的・管理的リーダーシップを發揮し、組織的にマネジメントができる。</p> <p>(5) 看護・保健領域における課題発見能力 看護・保健領域における課題を、学際的・国際的な視野での科学的思考と問題の本質を見抜く論理的思考、柔軟な視点を持って発見できる。</p> <p>《一般目標(GI0)》</p> <p>①個人・家族、集団、地域の健康課題に関連する要因の輻輳性について、理論を活用しながら考察する。</p> <p>②個人・家族、集団、地域への地域看護実践および公衆衛生看護実践における研究的課題を考察する。</p> <p>《個別目標(SB0s)》</p> <p>①地域で生活する人々の健康課題を多面的に検討し、その関連要因を探求する。</p> <p>②個人・家族、集団、地域の健康課題の解決のための支援及びその評価を遂行する能力を修得する。</p> <p>③地域看護実践および公衆衛生看護実践に寄与しうる研究を行うために必要な能力を修得する。</p>		
授業計画	<p>1-3. 地域看護実践および公衆衛生看護実践の基盤となる理念・概念（ヘルスプロモーション、エンパワメント、パートナーシップ、アドボカシー） [プレゼンテーション・講義・質疑応答]</p> <p>4-6. 公共論からみた公衆衛生看護実践 [プレゼンテーション・講義・質疑応答]</p> <p>7-9. 理念に基づく公衆衛生看護技術の体系 [講義・質疑応答]</p> <p>10-11. 地域における健康課題の多角的分析（健康の規定要因に関する諸理論） [プレゼンテーション・講義・質疑応答]</p> <p>12-14. 地域における健康課題の多角的分析（ソーシャルキャピタル、社会的包摂（排除）が健康へ与える要因） [プレゼンテーション・講義・質疑応答]</p> <p>15. 中間まとめ [プレゼンテーション]</p> <p>16-17. 公衆衛生看護実践における個人・家族への支援に関する理論・概念、モデル（ストレングスモデル、オープンダイアローグ） [プレゼンテーション・講義・質疑応答]</p> <p>18-19. 個人・家族への支援における事例検討の意義と方法 [プレゼンテーション・講義・</p>		

	<p>[質疑応答]</p> <p>20-21. 公衆衛生看護実践における組織への支援に関する理論・概念、モデル [プレゼンテーション・講義・質疑応答]</p> <p>22-23. 公衆衛生看護実践における地域診断に関する理論・概念、モデル [プレゼンテーション・講義・質疑応答]</p> <p>24-25. 公衆衛生看護実践における協働に関する理論・概念、モデル [プレゼンテーション・講義・質疑応答]</p> <p>26-27. 地域の健康課題への研究的接近方法 [プレゼンテーション]</p> <p>28-29. 地域看護実践への研究的接近方法 [プレゼンテーション]</p> <p>30. まとめ [プレゼンテーション・まとめ] (フィードバック方法)課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。</p>
準備学習	<p>(予習)</p> <p>1-30. 各回のテーマに関連した文献を読んでおくこと。発表者は、事前学習についてレポートにまとめておくこと。</p> <p>(復習)</p> <p>1-30. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。</p> <p>※全ての回、予習、復習とも 60 分以上必要である。</p> <p>☆概ね週当たり 4 時間以上必要である。</p> <p>☆時間外学習時間(予習復習など)は 120 時間以上が必要であるため不足分は休暇などをを利用して復習しておくこと。</p>
評価方法	プレゼンテーション(30%)、レポート(40%)、口頭試問(30%)
備考	この科目は 4 単位です。

科目名	地域看護学B	授業コード	24N30131
代表教員	大木 幸子	担当教員	
授業概要	健康と生活、地域のつながりを理解し、個人及び家族、集団、地域への支援方法の体系を学ぶ。		
学位授与方針の関連 学習目標	<p>『学位授与方針との関連』</p> <p>(1) 高い倫理観 生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理観を持ち、他者を尊重し、自己を律して、研究を遂行できる。</p> <p>(2) 専門領域における最新知識 看護ケアの質の向上を目指して、専門分野における最新知識を基に専門性の高い看護ケアを開発できる。</p> <p>『一般目標(GIO)』</p> <p>個人・家族、集団、地域の健康課題に関する要因の輻輳性について、理論を活用しながら考察する。</p> <p>『個別目標(SB0s)』</p> <p>①地域で生活する人々の健康課題を多面的に検討し、その関連要因を探求する。</p> <p>②個人・家族、集団、地域の健康課題の解決のための支援及びその評価を遂行する能力を修得する。</p>		
授業計画	<p>1-3. 地域看護実践および公衆衛生看護実践の基盤となる理念・概念（ヘルスプロモーション、エンパワメント、パートナーシップ、アドボカシー） [プレゼンテーション・講義・質疑応答]</p> <p>4-6. 公共論からみた公衆衛生看護実践 [プレゼンテーション・講義・質疑応答]</p> <p>7-9. 理念に基づく公衆衛生看護技術の体系 [講義・質疑応答]</p> <p>10-11. 地域における健康課題の多角的分析視点（健康の規定要因に関する諸理論） [プレゼンテーション・講義・質疑応答]</p> <p>12-14. 地域における健康課題の多角的分析視点（ソーシャルキャピタル、社会的包摂（排除）が健康へ与える要因） [プレゼンテーション・講義・質疑応答]</p> <p>15. まとめ [プレゼンテーション] (フィードバック方法)課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。</p>		
準備学習	<p>(予習)</p> <p>1-15. 各回のテーマに関連した文献を読んでおくこと。発表者は、事前学習についてレポートにまとめておくこと。</p> <p>(復習)</p> <p>1-15. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。</p> <p>※全ての回、予習、復習とも 60 分以上必要である。</p> <p>☆概ね週当たり 4 時間以上必要である。</p> <p>☆時間外学習時間(予習復習など)は 60 時間以上が必要であるため不足分は休暇などをを利用して復習しておくこと。</p>		
評価方法	プレゼンテーション(30%)、口頭試問(30%)、レポート(40%)		

備考

この科目は2単位です。

看護学専攻 博士後期課程

ジャーナルクラブ

特別研究

## 看護学専攻博士後期課程（令和5年度学則） 【ジャーナルクラブ・特別研究】

(1)高い倫理観

生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理観を持ち、他者を尊重し、自己を律して、研究を遂行できる。

(2)専門領域における最新知識

看護ケアの質の向上を目指して、専門分野における最新知識を基に専門性の高い看護ケアを開発できる。

(3)専門領域における優れたマネジメント能力

社会のニーズに対応した看護実践の改革・向上に向けて、教育的・管理的リーダーシップを発揮し、組織的にマネジメントができる。

(4)先行研究を批判的に吟味できる能力

看護・保健領域における国内外の学術論文を、仮説の設定、研究デザイン、データ分析と解釈および考察について、批判的に吟味することができる。

(5)看護・保健領域における課題発見能力

看護・保健領域における課題を、学際的・国際的な視野での科学的思考と問題の本質を見抜く論理的思考、柔軟な視点を持って発見できる。

(6)研究遂行能力

学際的・国際的な視野を持って看護学における課題を自ら発見し、看護学を体系化するために、自立して研究を推進できる。

専門分野	授業科目	単位認定者 (R7)	単位数	開講時期		社会人特別選抜		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)
				春	秋	夜間	土曜						
ジャーナルクラブ	ジャーナルクラブ I	浅沼 奈美	2	○		○	×			★	★	★	
	ジャーナルクラブ I	岩崎 孝子	2		○	○	×			★	★	★	
	ジャーナルクラブ I	大木 幸子	2		○	×	○			★	★	★	
	ジャーナルクラブ I	加賀谷 聰子	2		○	○	○			★	★	★	
	ジャーナルクラブ I	勝又 里織	2		○	○	×			★	★	★	
	ジャーナルクラブ I	佐々木 裕子	2	○		○	×			★	★	★	
	ジャーナルクラブ I	中島 恵美子	2		○	○	○			★	★	★	
	ジャーナルクラブ I	藤田 千春	2		○	○	○			★	★	★	
	ジャーナルクラブ I	米山 雅子	2		○	○	○			★	★	★	
	ジャーナルクラブ II	浅沼 奈美	2	○		○	×			★	★	★	
	ジャーナルクラブ II	岩崎 孝子	2		○	○	×			★	★	★	
	ジャーナルクラブ II	大木 幸子	2		○	×	○			★	★	★	
	ジャーナルクラブ II	加賀谷 聰子	2	○		○	○			★	★	★	
	ジャーナルクラブ II	勝又 里織	2		○	○	×			★	★	★	
	ジャーナルクラブ II	佐々木 裕子	2		○	○	×			★	★	★	
	ジャーナルクラブ II	中島 恵美子	2	○		○	○			★	★	★	
	ジャーナルクラブ II	藤田 千春	2	○		○	○			★	★	★	
	ジャーナルクラブ II	米山 雅子	2		○	○	○			★	★	★	
特別研究	基礎看護学	特別研究 I	金子 多喜子	4	○	○	—	—	★		★	★	★
		特別研究 II	金子 多喜子	4	○	○	—	—	★		★	★	★
		特別研究 III	金子 多喜子	4	○	○	—	—	★				★
	実践看護科学	特別研究 I	浅沼 奈美	4	○	○	—	—	★		★	★	★
		特別研究 I	岩崎 孝子	4	○	○	—	—	★		★	★	★
		特別研究 I	加賀谷 聰子	4	○	○	—	—	★		★	★	★
		特別研究 I	勝又 里織	4	○	○	—	—	★		★	★	★
		特別研究 I	佐々木 裕子	4	○	○	—	—	★		★	★	★
		特別研究 I	藤田 千春	4	○	○	—	—	★		★	★	★
		特別研究 I	米山 雅子	4	○	○	—	—	★		★	★	★
		特別研究 II	浅沼 奈美	2	○	○	—	—	★				★
		特別研究 II	岩崎 孝子	2	○	○	—	—	★				★
		特別研究 II	加賀谷 聰子	2	○	○	—	—	★				★
		特別研究 II	勝又 里織	2	○	○	—	—	★				★
		特別研究 II	佐々木 裕子	2	○	○	—	—	★				★
		特別研究 II	藤田 千春	2	○	○	—	—	★				★
		特別研究 II	米山 雅子	2	○	○	—	—	★				★

## 看護学専攻博士後期課程（令和5年度学則） 【ジャーナルクラブ・特別研究】

### (1)高い倫理観

生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理観を持ち、他者を尊重し、自己を律して、研究を遂行できる。

### (2)専門領域における最新知識

看護ケアの質の向上を目指して、専門分野における最新知識を基に専門性の高い看護ケアを開発できる。

### (3)専門領域における優れたマネジメント能力

社会のニーズに対応した看護実践の改革・向上に向けて、教育的・管理的リーダーシップを發揮し、組織的にマネジメントができる。

### (4)先行研究を批判的に吟味できる能力

看護・保健領域における国内外の学術論文を、仮説の設定、研究デザイン、データ分析と解釈および考察について、批判的に吟味することができる。

### (5)看護・保健領域における課題発見能力

看護・保健領域における課題を、学際的・国際的な視野での科学的思考と問題の本質を見抜く論理的思考、柔軟な視点を持って発見できる。

### (6)研究遂行能力

学際的・国際的な視野を持って看護学における課題を自ら発見し、看護学を体系化するために、自立して研究を推進できる。

専門分野		授業科目	単位認定者 (R7)	単位数	開講時期		社会人特別選抜		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)
					春	秋	夜間	土曜						
特別研究	実践看護科学	特別研究III	浅沼 奈美	2	○	○	—	—	★					★
		特別研究III	岩崎 孝子	2	○	○	—	—	★					★
		特別研究III	加賀谷 聰子	2	○	○	—	—	★					★
		特別研究III	勝又 里織	2	○	○	—	—	★					★
		特別研究III	佐々木 裕子	2	○	○	—	—	★					★
		特別研究III	藤田 千春	2	○	○	—	—	★					★
		特別研究III	米山 雅子	2	○	○	—	—	★					★

科目名	ジャーナルクラブ I	授業コード	24N3J1A2
代表教員	浅沼 奈美	担当教員	
授業概要	精神看護学領域に関する海外の文献を講読し、研究への示唆を得る。		
学位授与方針の関連 学習目標	<p>『学位授与方針との関連』</p> <p>(4) 先行研究を批判的に吟味できる能力 看護・保健領域における国内外の学術論文を、仮説の設定、研究デザイン、データ分析と解釈および考察について、批判的に吟味することができる。</p> <p>(5) 看護・保健領域における課題発見能力 看護・保健領域における課題を、学際的・国際的な視野での科学的思考と問題の本質を見抜く論理的思考、柔軟な視点を持って発見できる。</p> <p>(6) 研究遂行能力 学際的・国際的な視野を持って看護学における課題を自ら発見し、看護学を体系化するために、自立して研究を推進できる。</p> <p>『一般目標(GIO)』 精神看護学領域に関する海外の文献を講読し、諸外国における精神看護の動向を理解できる。</p>		
授業計画	<p>1-5. 諸外国の精神看護学に関する文献講読(5回) [演習]</p> <p>6-10. 文献に関するプレゼンテーション・討議(5回) [演習・プレゼンテーション]</p> <p>11-15. 諸外国の精神看護制度に関する文献講読(5回) [演習] (フィードバック方法)課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。</p>		
準備学習	<p>(予習) 1-15. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。 次回テーマに関してのデータ整理、検討し資料を作成すること。</p> <p>(復習) 1-15. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。 ☆概ね週当たり 4 時間以上必要である。 ☆時間外学習時間(予習復習など)は 60 時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。</p>		
評価方法	口頭試問(50%)、プレゼンテーション(50%)		
備考	この科目は 2 単位です。		

科目名	ジャーナルクラブ I	授業コード	24N3J1B2
代表教員	岩崎 孝子	担当教員	
授業概要	高齢者看護学領域に関する海外文献を講読し、高齢者看護学領域での研究課題と動向についての理解を深め、研究への示唆を得る。		
学位授与方針の関連 学習目標	<p>『学位授与方針との関連』</p> <p>(4) 先行研究を批判的に吟味できる能力 看護・保健領域における国内外の学術論文を、仮説の設定、研究デザイン、データ分析と解釈および考察について、批判的に吟味することができる。</p> <p>(5) 看護・保健領域における課題発見能力 看護・保健領域における課題を、学際的・国際的な視野での科学的思考と問題の本質を見抜く論理的思考、柔軟な視点を持って発見できる。</p> <p>(6) 研究遂行能力 学際的・国際的な視野を持って看護学における課題を自ら発見し、看護学を体系化するために、自立して研究を推進できる。</p> <p>『一般目標(GIO)』</p> <p>高齢者看護学領域に関する海外の文献を講読し、諸外国における高齢者看護の動向を理解できる。</p>		
授業計画	<p>1-12. 高齢者看護学領域に関する海外文献講読 [演習]</p> <p>13-15. 高齢者看護学領域の研究動向についてプレゼンテーション、討議 [演習・討議] (フィードバック方法) 課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。</p>		
準備学習	<p>(予習)</p> <p>1-15. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておく。 また、授業後は次回テーマに関してのデータ整理、検討し、資料を作成すること。</p> <p>(復習)</p> <p>1-15. 授業後はコメントを元に、学習の不足している点について補足学習を行い、追加の資料を作成する。</p> <p>※全ての回、予習、復習とも 60 分以上必要である。</p> <p>☆概ね週当たり 4 時間以上必要である。</p> <p>☆時間外学習時間(予習復習など)は 60 時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。</p>		
評価方法	口頭試問(50%)、プレゼンテーション(50%)		
備考	この科目は 2 単位です。		

科目名	ジャーナルクラブ I	授業コード	24N3J1C2
代表教員	大木 幸子	担当教員	大
授業概要	地域看護学および公衆衛生看護学領域における課題に関する国内外の文献の抄読を通して、地域看護学領域の専門性への考察を深める。		
学位授与方針の関連 学習目標	<p>『学位授与方針との関連』</p> <p>(4) 先行研究を批判的に吟味できる能力 看護・保健領域における国内外の学術論文を、仮説の設定、研究デザイン、データ分析と解釈および考察について、批判的に吟味することができる。</p> <p>(5) 看護・保健領域における課題発見能力 看護・保健領域における課題を、学際的・国際的な視野での科学的思考と問題の本質を見抜く論理的思考、柔軟な視点を持って発見できる。</p> <p>(6) 研究遂行能力 学際的・国際的な視野を持って看護学における課題を自ら発見し、看護学を体系化するため、自立して研究を推進できる。</p> <p>『一般目標(GIO)』</p> <p>公衆衛生看護学領域および地域看護学領域に関する国内外の文献を講読し、内外における公衆衛生看護・地域看護の研究動向を理解できる。</p>		
授業計画	<p>1-6. 公衆衛生看護学領域に関する論文の講読と討議 [プレゼンテーション・討議]</p> <p>7-12. 地域看護学領域に関する論文の講読と討議 [プレゼンテーション・討議]</p> <p>13-15. 地域看護学・公衆衛生看護学領域の研究動向についてプレゼンテーションおよび討議 [プレゼンテーション・討議]</p> <p>(フィードバック方法)課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。</p>		
準備学習	<p>(予習) 1-15. 各回のテーマに関連した文献を読み、内容をレポートにまとめておくこと。</p> <p>(復習) 1-15. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。</p> <p>※全ての回、予習、復習とも 60 分以上必要である。</p> <p>☆概ね週当たり 4 時間以上必要である。</p> <p>☆時間外学習時間(予習復習など)は 60 時間以上が必要であるため不足分は休暇などをを利用して復習しておくこと。</p>		
評価方法	口頭試問(50%)、プレゼンテーション(50%)		
備考	この科目は 2 単位です。		

科目名	ジャーナルクラブ I	授業コード	24N3J1D2
代表教員	加賀谷 聰子	担当教員	
授業概要	成人看護学領域に関する海外文献を講読し、その課題を明確にし、研究への示唆を得る。		
学位授与方針の関連 学習目標	<p>『学位授与方針との関連』</p> <p>(4)先行研究を批判的に吟味できる能力 看護・保健領域における国内外の学術論文を、仮説の設定、研究デザイン、データ分析と解釈および考察について、批判的に吟味することができる。</p> <p>(5)看護・保健領域における課題発見能力 看護・保健領域における課題を、学際的・国際的な視野での科学的思考と問題の本質を見抜く論理的思考、柔軟な視点を持って発見できる。</p> <p>(6)研究遂行能力 学際的・国際的な視野を持って看護学における課題を自ら発見し、看護学を体系化するために、自立して研究を推進できる。</p> <p>『一般目標(GIO)』 成人看護学領域に関する海外文献を精読し、国内外の動向および現状が理解できる。</p>		
授業計画	<p>1-12. 成人看護学領域(急性期)に関する海外文献講読 [演習] 各自の関心に基づき海外文献を講読する。</p> <p>13-15. 成人看護学領域の研究動向について [演習、討議] 成人看護学領域の研究動向についてプレゼンテーションを行い、ディスカッションで内容を深める。 (フィードバック方法)課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。</p>		
準備学習	<p>(予習) 1-15. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。 また、次回のテーマに関してのデータ整理、検討を行い資料を作成すること。</p> <p>(復習) 1-15. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。 ※全ての回、予習、復習とも 60 分必要とする。 ☆概ね週当たり 4 時間以上必要である。 ☆時間外学習時間(予習復習など)は 60 時間以上が必要であるため不足分は休暇などをを利用して復習しておくこと。</p>		
評価方法	口頭試問(50%)、プレゼンテーション(50%)		
備考	この科目は 2 単位です。		

科目名	ジャーナルクラブ I	授業コード	24N3J1E2
代表教員	勝又 里織	担当教員	
授業概要	母性看護学領域に関する海外文献を講読し、母性看護学領域での研究課題と動向、最新の研究方法についての理解を深める。		
学位授与方針の関連 学習目標	<p>『学位授与方針との関連』</p> <p>(4) 先行研究を批判的に吟味できる能力 看護・保健領域における国内外の学術論文を、仮説の設定、研究デザイン、データ分析と解釈および考察について、批判的に吟味することができる。</p> <p>(5) 看護・保健領域における課題発見能力 看護・保健領域における課題を、学際的・国際的な視野での科学的思考と問題の本質を見抜く論理的思考、柔軟な視点を持って発見できる。</p> <p>(6) 研究遂行能力 学際的・国際的な視野を持って看護学における課題を自ら発見し、看護学を体系化するため、自立して研究を推進できる。</p> <p>『一般目標(GIO)』</p> <p>母性看護学領域に関する海外文献を講読し、国内外の動向と現状が理解できる。</p>		
授業計画	<p>1-8. 母性看護学領域に関する海外文献の講読 [演習]</p> <p>9-10. 母性看護学領域の研究動向についてプレゼンテーションと討議 [演習]</p> <p>11-15. 母性看護学領域で用いられる研究手法、測定用具 [演習]</p> <p>(フィードバック方法)課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。</p>		
準備学習	<p>(予習)</p> <p>1-15. 各回とも、ゼミ前日までにレジメと文献のコピーを指導教員およびゼミ出席者に提出する。</p> <p>(復習)</p> <p>1-15. 授業でのコメントを元に、学習の不足している点について補足学習を行い、追加の資料を作成する。</p> <p>☆概ね週当たり 4 時間以上必要である。</p> <p>☆時間外学習時間(予習復習など)は 60 時間以上が必要であるため不足分は休暇などをを利用して復習しておくこと。</p>		
評価方法	口頭試問(50%)、プレゼンテーション(50%)		
備考	この科目は 2 単位です。		

科目名	ジャーナルクラブ I	授業コード	24N3J1F1
代表教員	佐々木 裕子	担当教員	
授業概要	ウィメンズヘルスに関する海外文献を講読し、ウィメンズヘルス看護領域での研究課題と動向、最新の研究知見について理解を深める。		
学位授与方針の関連 学習目標	<p>『学位授与方針との関連』</p> <p>(4) 先行研究を批判的に吟味できる能力 看護・保健領域における国内外の学術論文を、仮説の設定、研究デザイン、データ分析と解釈および考察について、批判的に吟味することができる。</p> <p>(5) 看護・保健領域における課題発見能力 看護・保健領域における課題を、学際的・国際的な視野での科学的思考と問題の本質を見抜く論理的思考、柔軟な視点を持って発見できる。</p> <p>(6) 研究遂行能力 学際的・国際的な視野を持って看護学における課題を自ら発見し、看護学を体系化するために、自立して研究を推進できる。</p> <p>『一般目標(GIO)』 ウィメンズヘルス看護領域に関する海外文献を精読し、国内外の研究動向と現状が理解できる。</p>		
授業計画	<p>1-8. ウィメンズヘルスに関する海外文献の講読 [演習]</p> <p>9-10. ウィメンズヘルス看護領域の研究動向についてプレゼンテーションと討議 [演習]</p> <p>11-15. ウィメンズヘルス看護領域で用いられる研究手法、測定用具 [演習] (フィードバック方法)課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。</p>		
準備学習	<p>(予習)</p> <p>1-15. 各回とも、ゼミ前日までにレジメと参考文献を指導教員に提出する。</p> <p>(復習)</p> <p>1-15. 授業でのコメントを元に、学習の不足している点について補足学習を行い、追加の資料を作成する。</p> <p>※全ての回、予習、復習とも 60 分以上必要である。</p> <p>☆概ね週当たり 4 時間以上必要である。</p> <p>☆時間外学習時間(予習復習など)は 60 時間以上が必要であるため不足分は休暇などをを利用して復習しておくこと。</p>		
評価方法	口頭試問 (50%)、プレゼンテーション (50%)		
備考	この科目は 2 単位です。		

科目名	ジャーナルクラブ I	授業コード	24N3J1G2
代表教員	中島 恵美子	担当教員	
授業概要	成人看護学領域（慢性期）に関する海外文献を講読し、その課題を明確にし、研究への示唆を得る。		
学位授与方針の関連 学習目標	<p>『学位授与方針との関連』</p> <p>(4) 先行研究を批判的に吟味できる能力 看護・保健領域における国内外の学術論文を、仮説の設定、研究デザイン、データ分析と解釈および考察について、批判的に吟味することができる。</p> <p>(5) 看護・保健領域における課題発見能力 看護・保健領域における課題を、学際的・国際的な視野での科学的思考と問題の本質を見抜く論理的思考、柔軟な視点を持って発見できる。</p> <p>(6) 研究遂行能力 学際的・国際的な視野を持って看護学における課題を自ら発見し、看護学を体系化するため、自立して研究を推進できる。</p> <p>『一般目標(GIO)』</p> <p>成人看護学領域に関する海外文献を講読し、諸外国における成人看護の動向を理解できる。</p>		
授業計画	<p>1-12. 成人看護学領域(慢性期)に関する海外文献講読 [演習]</p> <p>13-15. 成人看護学領域の研究動向についてプレゼンテーション、討議 [演習・討議] (フィードバック方法)課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。</p>		
準備学習	<p>(予習) 1-15. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておく。 また、授業後は次回テーマに関してのデータ整理、検討をし資料を作成すること。</p> <p>(復習) 1-15. 他に学習が不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。 ☆概ね週当たり 4 時間以上必要である。 ☆時間外学習時間(予習復習など)は 60 時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。</p>		
評価方法	口頭試問(50%)、プレゼンテーション(50%)		
備考	この科目は 2 単位です。		

科目名	ジャーナルクラブ I	授業コード	24N3J1H2
代表教員	藤田 千春	担当教員	
授業概要	小児看護学領域に関する国内外の文献を講読し、研究への示唆を得る。		
学位授与方針の関連 学習目標	<p>『学位授与方針との関連』</p> <p>(4) 先行研究を批判的に吟味できる能力 看護・保健領域における国内外の学術論文を、仮説の設定、研究デザイン、データ分析と解釈および考察について、批判的に吟味することができる。</p> <p>(5) 看護・保健領域における課題発見能力 看護・保健領域における課題を、学際的・国際的な視野での科学的思考と問題の本質を見抜く論理的思考、柔軟な 視点を持って発見できる。</p> <p>(6) 研究遂行能力 学際的・国際的な視野を持って看護学における課題を自ら発見し、看護学を体系化するために、自立して研究を推進できる。</p> <p>『一般目標(GIO)』</p> <p>小児看護学領域の国内外文献の講読を通して動向を理解できる。</p>		
授業計画	<p>1-6. 小児看護領域の国内論文の講読と討議 [プレゼンテーション・討議]</p> <p>7-12. 小児看護領域の海外論文の講読と討議 [プレゼンテーション・討議]</p> <p>13-15. 小児・家族を対象にした尺度開発や理論構築に関する国内外論文の講読と討議 [プレゼンテーション・討議]</p> <p>(フィードバック方法) 課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。</p>		
準備学習	<p>(予習)</p> <p>1-15. 各回のテーマに関連した文献を読み、内容をレポートにまとめておくこと。</p> <p>(復習)</p> <p>1-15. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。</p> <p>※全ての回、予習、復習とも 60 分以上必要である。</p> <p>☆概ね週当たり 4 時間以上必要である。</p> <p>☆時間外学習時間（予習復習など）は 60 時間以上が必要であるため不足分は休暇などをを利用して復習しておくこと。</p>		
評価方法	口頭試問 (50%)、プレゼンテーション (50%)		
備考	この科目は 2 単位です。		

科目名	ジャーナルクラブ I	授業コード	24N3J1I1
代表教員	米山 雅子	担当教員	
授業概要	小児看護学領域に関する国内外の文献を講読し、研究への示唆を得る。		
学位授与方針の関連 学習目標	<p>『学位授与方針との関連』</p> <p>(4) 先行研究を批判的に吟味できる能力 看護・保健領域における国内外の学術論文を、仮説の設定、研究デザイン、データ分析と解釈および考察について、批判的に吟味することができる。</p> <p>(5) 看護・保健領域における課題発見能力 看護・保健領域における課題を、学際的・国際的な視野での科学的思考と問題の本質を見抜く論理的思考、柔軟な 視点を持って発見できる。</p> <p>(6) 研究遂行能力 学際的・国際的な視野を持って看護学における課題を自ら発見し、看護学を体系化するために、自立して研究を推進できる。</p> <p>『一般目標(GIO)』</p> <p>国内外の文献を講読し、諸外国における小児看護の動向を理解できる。</p>		
授業計画	<p>1-7. 研究テーマに関する文献講読 [演習]</p> <p>8-14. 文献に関するプレゼンテーション・討議 [演習・プレゼンテーション]</p> <p>15. まとめ [演習]</p> <p>(フィードバック方法)課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。</p>		
準備学習	<p>(予習) 1-15. 各回とも、それぞれのテーマに関する基礎的な事項を学習し直しておくこと。 また、次回テーマに関してのデータ整理、検討し資料を作成すること。</p> <p>(復習) 1-15. 各回のディスカッションを踏まえ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。</p> <p>*すべての回、予習、復習とも 60 分以上必要である。 ☆概ね週当たり 4 時間以上必要である。 ☆時間外学習時間(予習復習など)は 60 時間以上が必要であるため不足分は休暇などをを利用して復習しておくこと。</p>		
評価方法	口頭試問(50%)、プレゼンテーション(50%)		
備考	この科目は 2 単位です。		

科目名	ジャーナルクラブ I	授業コード	24N3J1J1
代表教員	金子 多喜子	担当教員	
授業概要	研究テーマに関する国内外の文献の講読を通して、自己の研究テーマに対する示唆を得る。		
学位授与方針の関連 学習目標	<p>『学位授与方針との関連』</p> <p>(4) 先行研究を批判的に吟味できる能力 看護・保健領域における国内外の学術論文を、仮説の設定、研究デザイン、データ分析と解釈および考察について、批判的に吟味することができる。</p> <p>(5) 看護・保健領域における課題発見能力 看護・保健領域における課題を、学際的・国際的な視野での科学的思考と問題の本質を見抜く論理的思考、柔軟な視点を持って発見できる。</p> <p>(6) 研究遂行能力 学際的・国際的な視野を持って看護学における課題を自ら発見し、看護学を体系化するため、自立して研究を推進できる。</p> <p>『一般目標(GI0)』</p> <p>国内外の文献の講読を通して、諸外国との比較から研究背景を明確にできる。</p>		
授業計画	<p>1-7. 研究テーマに関する文献講読 [演習]</p> <p>8-14. 文献に関するプレゼンテーション・討議 [演習・プレゼンテーション]</p> <p>15. まとめ [演習] (フィードバック方法)課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。</p>		
準備学習	<p>(予習) 1-15. 各回とも、それぞれのテーマに関する基礎的な事項を学習し直しておくこと。 また、次回テーマに関してのデータ整理、検討し資料を作成すること。</p> <p>(復習) 1-15. 各回のディスカッションを踏まえ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。</p> <p>*すべての回、予習、復習とも 60 分以上必要である。 ☆概ね週当たり 4 時間以上必要である。 ☆時間外学習時間(予習復習など)は 60 時間以上が必要であるため不足分は休暇などをを利用して復習しておくこと。</p>		
評価方法	口頭試問(50%)、プレゼンテーション(50%)		
備考	この科目は 2 単位です。		

科目名	ジャーナルクラブⅡ	授業コード	24N3J2A1
代表教員	浅沼 奈美	担当教員	
授業概要	研究課題に関する海外の文献を講読し、自己の研究への示唆を得る。		
学位授与方針の関連 学習目標	<p>『学位授与方針との関連』</p> <p>(4) 先行研究を批判的に吟味できる能力 看護・保健領域における国内外の学術論文を、仮説の設定、研究デザイン、データ分析と解釈および考察について、批判的に吟味することができる。</p> <p>(5) 看護・保健領域における課題発見能力 看護・保健領域における課題を、学際的・国際的な視野での科学的思考と問題の本質を見抜く論理的思考、柔軟な 視点を持って発見できる。</p> <p>(6) 研究遂行能力 学際的・国際的な視野を持って看護学における課題を自ら発見し、看護学を体系化するため、自立して研究を推進できる。</p> <p>『一般目標(GIO)』</p> <p>精神看護学領域に関する海外の文献を講読し、諸外国における精神看護の動向を理解できる。</p>		
授業計画	<p>1-7. 研究課題に関する文献講読(7回) [演習] 8-14. 文献に関するプレゼンテーション・討議(7回) [演習] 15. まとめ(1回) [演習]</p> <p>(フィードバック方法)課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。</p>		
準備学習	<p>(予習) 1-15. 各回とも、それぞれのテーマに関する基礎的な事項を学習し直しておくこと。 次回テーマに関してのデータ整理、検討し資料を作成すること。</p> <p>(復習) 1-15. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。</p> <p>☆概ね週当たり 4 時間以上必要である。 ☆時間外学習時間(予習復習など)は 60 時間以上が必要であるため不足分は休暇などをを利用して復習しておくこと。</p>		
評価方法	口頭試問(50%)、プレゼンテーション(50%)		
備考	この科目は 2 単位です。		

科目名	ジャーナルクラブⅡ	授業コード	24N3J2B2
代表教員	岩崎 孝子	担当教員	
授業概要	自己の研究課題に関する海外論文を講読し、研究課題についての示唆を得る。		
学位授与方針の関連 学習目標	<p>『学位授与方針との関連』</p> <p>(4) 先行研究を批判的に吟味できる能力 看護・保健領域における国内外の学術論文を、仮説の設定、研究デザイン、データ分析と解釈および考察について、批判的に吟味することができる。</p> <p>(5) 看護・保健領域における課題発見能力 看護・保健領域における課題を、学際的・国際的な視野での科学的思考と問題の本質を見抜く論理的思考、柔軟な視点を持って発見できる。</p> <p>(6) 研究遂行能力 学際的・国際的な視野を持って看護学における課題を自ら発見し、看護学を体系化するために、自立して研究を推進できる。</p> <p>『一般目標(GIO)』 高齢者看護学領域に関する海外の文献を講読し、諸外国における高齢者看護の動向を理解できる。</p>		
授業計画	<p>1-7. 自己の研究課題に応じた文献講読 [演習]</p> <p>8-14. 講読文献についてのプレゼンテーション・討議 [演習]</p> <p>15. まとめ [演習] (フィードバック方法)課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。</p>		
準備学習	<p>(予習) 1-15. 各回とも、それぞれのテーマに関する基礎的な事項を学習し直しておく。 また、授業後は次回テーマに関してのデータ整理、検討し、資料を作成すること。</p> <p>(復習) 1-15. 授業後はコメントを元に、学習の不足している点について補足学習を行い、追加の資料を作成する。</p> <p>※全ての回、予習、復習とも 60 分以上必要である。 ☆概ね週当たり 4 時間以上必要である。 ☆時間外学習時間(予習復習など)は 60 時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。</p>		
評価方法	口頭試問(50%)、プレゼンテーション(50%)		
備考	この科目は 2 単位です。		

科目名	ジャーナルクラブⅡ	授業コード	24N3J2C2
代表教員	大木 幸子	担当教員	
授業概要	各自の研究テーマにそった課題に関する国内外の文献の抄読を通して、自らの研究課題及びそれらの課題への接近方法についての示唆を得る。		
学位授与方針の関連 学習目標	<p>『学位授与方針との関連』</p> <p>(4) 先行研究を批判的に吟味できる能力 看護・保健領域における国内外の学術論文を、仮説の設定、研究デザイン、データ分析と解釈および考察について、批判的に吟味することができる。</p> <p>(5) 看護・保健領域における課題発見能力 看護・保健領域における課題を、学際的・国際的な視野での科学的思考と問題の本質を見抜く論理的思考、柔軟な視点を持って発見できる。</p> <p>(6) 研究遂行能力 学際的・国際的な視野を持って看護学における課題を自ら発見し、看護学を体系化するため、自立して研究を推進できる。</p> <p>『一般目標(GIO)』</p> <p>研究課題に応じた国内外の文献を精読し、内外における研究動向を理解できる。</p>		
授業計画	<p>1-7. 自らの研究テーマに応じた文献の講読(7回) [プレゼンテーション・討議]</p> <p>8-14. 講読文献に関するプレゼンテーションと討議(7回) [プレゼンテーション・討議]</p> <p>15. まとめ(1回) [プレゼンテーション・討議] (フィードバック方法)課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。</p>		
準備学習	<p>(予習)</p> <p>1-15. 各回のテーマに関連した文献を読み、内容をレポートにまとめておくこと。</p> <p>(復習)</p> <p>1-15. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。</p> <p>※全ての回、予習、復習とも 60 分以上必要である。</p> <p>☆概ね週当たり 4 時間以上必要である。</p> <p>☆時間外学習時間(予習復習など)は 60 時間以上が必要であるため不足分は休暇などをを利用して復習しておくこと。</p>		
評価方法	口頭試問(50%)、プレゼンテーション(50%)		
備考	この科目は 2 単位です。		

科目名	ジャーナルクラブⅡ	授業コード	24N3J2D1
代表教員	加賀谷 聰子	担当教員	
授業概要	研究課題に関する海外文献を講読し、自己の研究課題に対する示唆を得る。		
学位授与方針の関連 学習目標	<p>『学位授与方針との関連』</p> <p>(4) 先行研究を批判的に吟味できる能力 看護・保健領域における国内外の学術論文を、仮説の設定、研究デザイン、データ分析と解釈および考察について、批判的に吟味することができる。</p> <p>(5) 看護・保健領域における課題発見能力 看護・保健領域における課題を、学際的・国際的な視野での科学的思考と問題の本質を見抜く論理的思考、柔軟な視点を持って発見できる。</p> <p>(6) 研究遂行能力 学際的・国際的な視野を持って看護学における課題を自ら発見し、看護学を体系化するために、自立して研究を推進できる。</p> <p>『一般目標(GIO)』 研究課題に関連する海外文献を精読し、自己の研究についての示唆を得る。</p>		
授業計画	<p>1-7. 自己の研究課題に応じた文献講読 [演習] 各自の研究課題に関連した海外文献を講読する。</p> <p>8-14. 講読文献についてプレゼンテーション・討議 [演習] 講読した文献のプレゼンテーションを行い、ディスカッションを通して内容を深める。</p> <p>15. まとめ [演習] (フィードバック方法)課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。</p>		
準備学習	<p>(予習) 1-15. 各回ともそれぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。 また、次回のテーマに関してのデータ整理、検討を行い資料を作成すること。</p> <p>(復習) 1-15. 学習の不足している点については、資料に基づき補足学習を実施すること。 ※全ての回、予習、復習とも 60 分必要とする。 ☆概ね週当たり 4 時間以上必要である。 ☆時間外学習時間(予習復習など)は 60 時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。</p>		
評価方法	口頭試問(50%)、プレゼンテーション(50%)		
備考	この科目は 2 単位です。		

科目名	ジャーナルクラブⅡ	授業コード	24N3J2E2
代表教員	勝又 里織	担当教員	
授業概要	自らの研究課題に関する海外文献を講読し、着手する研究への示唆を得る。		
学位授与方針の関連 学習目標	<p>『学位授与方針との関連』</p> <p>(4) 先行研究を批判的に吟味できる能力 看護・保健領域における国内外の学術論文を、仮説の設定、研究デザイン、データ分析と解釈および考察について、批判的に吟味することができる。</p> <p>(5) 看護・保健領域における課題発見能力 看護・保健領域における課題を、学際的・国際的な視野での科学的思考と問題の本質を見抜く論理的思考、柔軟な視点を持って発見できる。</p> <p>(6) 研究遂行能力 学際的・国際的な視野を持って看護学における課題を自ら発見し、看護学を体系化するため、自立して研究を推進できる。</p> <p>『一般目標(GIO)』</p> <p>研究課題に応じた海外文献を講読しその内容を理解しプレゼンテーションできる。</p>		
授業計画	<p>1-7. 自らの研究課題に応じた文献講読 [演習]</p> <p>8-14. 講読した文献についてプレゼンテーション、討議 [演習]</p> <p>15. まとめ [演習]</p> <p>(フィードバック方法)課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。</p>		
準備学習	<p>(予習)</p> <p>1-15. 各回とも、ゼミ前日までにレジメと文献のコピーを指導教員およびゼミ出席者に提出する。</p> <p>(復習)</p> <p>1-15. 授業でのコメントをもとに、学習が不足している点について、補足学習を行い、追加資料を作成する。</p> <p>☆概ね週当たり 4 時間以上必要である。</p> <p>☆時間外学習時間(予習復習など)は 60 時間以上が必要であるため不足分は休暇などをを利用して復習しておくこと。</p>		
評価方法	口頭試問(50%)、プレゼンテーション(50%)		
備考	この科目は 2 単位です。		

科目名	ジャーナルクラブⅡ	授業コード	24N3J2F2
代表教員	佐々木 裕子	担当教員	
授業概要	研究課題に関する海外文献を講読し、自己の研究への示唆を得る。		
学位授与方針の関連 学習目標	<p>『学位授与方針との関連』</p> <p>(4) 先行研究を批判的に吟味できる能力 看護・保健領域における国内外の学術論文を、仮説の設定、研究デザイン、データ分析と解釈および考察について、批判的に吟味することができる。</p> <p>(5) 看護・保健領域における課題発見能力 看護・保健領域における課題を、学際的・国際的な視野での科学的思考と問題の本質を見抜く論理的思考、柔軟な視点を持って発見できる。</p> <p>(6) 研究遂行能力 学際的・国際的な視野を持って看護学における課題を自ら発見し、看護学を体系化するため、自立して研究を推進できる。</p> <p>『一般目標(GI0)』</p> <p>ウイメンズヘルス看護領域に関する海外文献を精読し、国内外の研究動向と現状が理解できる。</p>		
授業計画	<p>1-7. 自らの研究課題に課題に応じた文献講読 [演習] 8-14. 講読した文献についてのプレゼンテーション、討議 [演習] 15. まとめ [演習]</p> <p>(フィードバック方法) 課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。</p>		
準備学習	<p>(予習) 1-15. 各回ともゼミの前日までにレジメと参考文献を指導教員に提出する。</p> <p>(復習) 1-15. 授業でのコメントをもとに、学習の不足している点については補足学習を行い追加資料を作成する。</p> <p>※全ての回、予習、復習とも 60 分以上必要である。 ☆概ね週当たり 4 時間以上必要である。 ☆時間外学習時間（予習復習など）は 60 時間以上が必要であるため不足分は休暇などをを利用して復習しておくこと。</p>		
評価方法	口頭試問 (50%)、プレゼンテーション (50%)		
備考	この科目は 2 単位です。		

科目名	ジャーナルクラブⅡ	授業コード	24N3J2G1
代表教員	中島 恵美子	担当教員	
授業概要	研究課題に関する海外文献を講読し、自己の研究課題に対する示唆を得る。		
学位授与方針の関連 学習目標	<p>『学位授与方針との関連』</p> <p>(4) 先行研究を批判的に吟味できる能力 看護・保健領域における国内外の学術論文を、仮説の設定、研究デザイン、データ分析と解釈および考察について、批判的に吟味することができる。</p> <p>(5) 看護・保健領域における課題発見能力 看護・保健領域における課題を、学際的・国際的な視野での科学的思考と問題の本質を見抜く論理的思考、柔軟な視点を持って発見できる。</p> <p>(6) 研究遂行能力 学際的・国際的な視野を持って看護学における課題を自ら発見し、看護学を体系化するため、自立して研究を推進できる。</p> <p>『一般目標(GIO)』</p> <p>研究課題に応じた海外文献を講読し、研究背景や研究方法が理解できる。</p>		
授業計画	<p>1-7. 自己の研究課題に応じた文献講読 [演習] 8-14. 講読文献についてプレゼンテーション・討議 [演習] 15. まとめ [演習]</p> <p>(フィードバック方法)課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。</p>		
準備学習	<p>(予習) 1-15. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておく。 また、次回テーマに関してのデータ整理、検討をし資料を作成すること。</p> <p>(復習) 1-15. 他に学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。 ☆概ね週当たり 4 時間以上必要である。 ☆時間外学習時間(予習復習など)は 60 時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。</p>		
評価方法	口頭試問(50%)、プレゼンテーション(50%)		
備考	この科目は 2 単位です。		

科目名	ジャーナルクラブⅡ	授業コード	24N3J2H1
代表教員	藤田 千春	担当教員	藤田 千春
授業概要	研究課題に関する海外の文献を講読し、自己の研究への示唆を得る。		
学位授与方針の関連 学習目標	<p>『学位授与方針との関連』</p> <p>(4) 先行研究を批判的に吟味できる能力 看護・保健領域における国内外の学術論文を、仮説の設定、研究デザイン、データ分析と解釈および考察について、批判的に吟味することができる。</p> <p>(5) 看護・保健領域における課題発見能力 看護・保健領域における課題を、学際的・国際的な視野での科学的思考と問題の本質を見抜く論理的思考、柔軟な 視点を持って発見できる。</p> <p>(6) 研究遂行能力 学際的・国際的な視野を持って看護学における課題を自ら発見し、看護学を体系化するため、自立して研究を推進できる。</p> <p>『一般目標(GIO)』</p> <p>研究課題に関する国内外の研究動向や研究の問い合わせを明らかにする方法論を理解できる。</p>		
授業計画	<p>1-7. 自身の研究課題に応じた文献の講読（7回） [演習]</p> <p>8-14. 講読文献に関するプレゼンテーションと討議（7回） [演習]</p> <p>15. まとめ（1回） [演習]</p> <p>（フィードバック方法）課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。</p>		
準備学習	<p>（予習） 1-15. 各回のテーマに関連した文献を読み、内容をレポートにまとめておくこと。 （復習） 1-15. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。 ※全ての回、予習、復習とも 60 分以上必要である。 ☆概ね週当たり 4 時間以上必要である。 ☆時間外学習時間（予習復習など）は 60 時間以上が必要であるため不足分は休暇などをを利用して復習しておくこと。</p>		
評価方法	口頭試問（50%）、プレゼンテーション（50%）		
備考	この科目は 2 単位です。		

科目名	ジャーナルクラブⅡ	授業コード	24N3J2I1
代表教員	米山 雅子	担当教員	
授業概要	研究課題に関する海外の文献を講読し、自己の研究への示唆を得る。		
学位授与方針の関連 学習目標	<p>『学位授与方針との関連』</p> <p>(4) 先行研究を批判的に吟味できる能力 看護・保健領域における国内外の学術論文を、仮説の設定、研究デザイン、データ分析と解釈および考察について、批判的に吟味することができる。</p> <p>(5) 看護・保健領域における課題発見能力 看護・保健領域における課題を、学際的・国際的な視野での科学的思考と問題の本質を見抜く論理的思考、柔軟な 視点を持って発見できる。</p> <p>(6) 研究遂行能力 学際的・国際的な視野を持って看護学における課題を自ら発見し、看護学を体系化するために、自立して研究を推進できる。</p> <p>『一般目標(GIO)』 国内外の文献を講読し、諸外国における小児看護の動向を理解できる。</p>		
授業計画	<p>1-7. 自身の研究課題に応じた文献の講読（7回） [演習]</p> <p>8-14. 講読文献に関するプレゼンテーションと討議（7回） [演習]</p> <p>15. まとめ（1回） [演習] (フィードバック方法) 課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。</p>		
準備学習	<p>(予習)</p> <p>1-15. 各回のテーマに関連した文献を読み、内容をレポートにまとめておくこと。</p> <p>(復習)</p> <p>1-15. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。</p> <p>※全ての回、予習、復習とも 60 分以上必要である。</p> <p>☆概ね週当たり 4 時間以上必要である。</p> <p>☆時間外学習時間（予習復習など）は 60 時間以上が必要であるため不足分は休暇などをを利用して復習しておくこと。</p>		
評価方法	口頭試問（50%）、プレゼンテーション（50%）		
備考	この科目は 2 単位です。		

科目名	ジャーナルクラブⅡ	授業コード	24N3J2J1
代表教員	金子 多喜子	担当教員	金子 多喜子
授業概要	研究テーマに関する国内外の文献の講読を通して、自己の研究テーマに対する示唆を得る。		
学位授与方針の関連 学習目標	<p>『学位授与方針との関連』</p> <p>(4) 先行研究を批判的に吟味できる能力 看護・保健領域における国内外の学術論文を、仮説の設定、研究デザイン、データ分析と解釈および考察について、批判的に吟味することができる。</p> <p>(5) 看護・保健領域における課題発見能力 看護・保健領域における課題を、学際的・国際的な視野での科学的思考と問題の本質を見抜く論理的思考、柔軟な視点を持って発見できる。</p> <p>(6) 研究遂行能力 学際的・国際的な視野を持って看護学における課題を自ら発見し、看護学を体系化するために、自立して研究を推進できる。</p> <p>『一般目標(GI0)』</p> <p>国内外の文献の講読を通して、諸外国との比較から研究背景を明確にできる。</p>		
授業計画	<p>1-7. 研究テーマに関する文献講読 [演習]</p> <p>8-14. 文献に関するプレゼンテーション・討議 [演習・プレゼンテーション]</p> <p>15. まとめ [演習] (フィードバック方法)課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。</p>		
準備学習	<p>(予習) 1-15. 各回とも、それぞれのテーマに関する基礎的な事項を学習し直しておくこと。 また、次回テーマに関してのデータ整理、検討し資料を作成すること。</p> <p>(復習) 1-15. 各回のディスカッションを踏まえ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。</p> <p>*すべての回、予習、復習とも 60 分以上必要である。 ☆概ね週当たり 4 時間以上必要である。 ☆時間外学習時間(予習復習など)は 60 時間以上が必要であるため不足分は休暇などをを利用して復習しておくこと。</p>		
評価方法	口頭試問(50%)、プレゼンテーション(50%)		
備考	この科目は 2 単位です。		

科目名	特別研究 I	授業コード	24N3T1C1 / 24N3T1C2
代表教員	加賀谷 聰子	担当教員	
授業概要	学位論文作成に向けて、研究課題および研究手法を明確にし、自立した研究活動を展開する。		
学位授与方針の関連 学習目標	<p>『学位授与方針との関連』</p> <p>(1)高い倫理観 生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理観を持ち、他者を尊重し、自己を律して、研究を遂行できる。</p> <p>(4)先行研究を批判的に吟味できる能力 看護・保健領域における国内外の学術論文を、仮説の設定、研究デザイン、データ分析と解釈および考察について、批判的に吟味することができる。</p> <p>(5)看護・保健領域における課題発見能力 看護・保健領域における課題を、学際的・国際的な視野での科学的思考と問題の本質を見抜く論理的思考、柔軟な視点を持って発見できる。</p> <p>(6)研究遂行能力 学際的・国際的な視野を持って看護学における課題を自ら発見し、看護学を体系化するため、自立して研究を推進できる。</p> <p>『一般目標(GI0)』 研究課題および方法を明確にし、研究計画書を作成できる。</p>		
授業計画	<p>1-8. 研究課題の探究 [演習] 関心のある領域の文献を検討し、研究課題を明確にしていく。</p> <p>9-16. 研究課題に関する先行文献の検討 [演習] 各自の研究課題に関する先行研究を分析する。</p> <p>17-20. 研究計画における倫理的問題の検討 [演習] 研究課題に関連する倫理的問題を検討する。</p> <p>21-30. 研究計画書の作成 [演習] 研究計画書の作成を行う。 (フィードバック方法)課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。</p>		
準備学習	<p>(予習) 1-30. 年間の研究スケジュールを作成する。各回ともそれぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。 また、次回テーマに関してデータの整理、検討を行い、資料を作成すること。</p> <p>(復習) 1-30. 学習の不足している点については、資料に基づき補足学習を実施すること。 ※全ての回、予習は 60 分、復習は 60 分必要とする。 ☆概ね週当たり 4 時間以上必要である。 ☆時間外学習時間(予習復習など)は 120 時間以上が必要であるため不足分は休暇などをを利用して復習しておくこと。</p>		
評価方法	口頭試問(50%)、研究計画書(50%)		
備考	この科目は 4 単位です。		

科目名	特別研究 I	授業コード	24N3T1D1 / 24N3T1D2
代表教員	浅沼 奈美	担当教員	
授業概要	学位論文作成に向けて、研究課題および方法を明確にし、自立した研究活動を展開する。		
学位授与方針の関連 学習目標	<p>『学位授与方針との関連』</p> <p>(1) 高い倫理観 生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理観を持ち、他者を尊重し、自己を律して、研究を遂行できる。</p> <p>(4) 先行研究を批判的に吟味できる能力 看護・保健領域における国内外の学術論文を、仮説の設定、研究デザイン、データ分析と解釈および考察について、批判的に吟味することができる。</p> <p>(5) 看護・保健領域における課題発見能力 看護・保健領域における課題を、学際的・国際的な視野での科学的思考と問題の本質を見抜く論理的思考、柔軟な視点を持って発見できる。</p> <p>(6) 研究遂行能力 学際的・国際的な視野を持って看護学における課題を自ら発見し、看護学を体系化するため、自立して研究を推進できる。</p> <p>『一般目標(GIO)』</p> <p>研究課題および方法を明確にする。</p>		
授業計画	<p>1-12. 先行研究の検討(12回) [演習・プレゼンテーション]      13-20. フィールドの選定(8回) [演習・プレゼンテーション]      21-30. 研究計画書の作成(10回) [演習・プレゼンテーション]</p> <p>(フィードバック方法)課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。</p>		
準備学習	<p>(予習)      1-30. 各回とも、それぞれのテーマに関する基礎的な事項を学習し直しておくこと。      次回テーマに関するデータ整理、検討し資料を作成すること。</p> <p>(復習)      1-30. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。</p> <p>☆概ね週当たり 4 時間以上必要である。      ☆時間外学習時間(予習復習など)は 120 時間以上が必要であるため不足分は休暇などをを利用して復習しておくこと。</p>		
評価方法	口頭試問(50%)、研究計画書(50%)		
備考	この科目は 4 単位です。		

科目名	特別研究 I	授業コード	24N3T1E1 / 24N3T1E2
代表教員	勝又 里織	担当教員	勝又 里織
授業概要	博士論文作成に向けて、研究課題および研究方法を明確にし、自立した研究活動を開く。		
学位授与方針の関連 学習目標	<p>『学位授与方針との関連』</p> <p>(1)高い倫理観 生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理観を持ち、他者を尊重し、自己を律して、研究を遂行できる。</p> <p>(4)先行研究を批判的に吟味できる能力 看護・保健領域における国内外の学術論文を、仮説の設定、研究デザイン、データ分析と解釈および考察について、批判的に吟味することができる。</p> <p>(5)看護・保健領域における課題発見能力 看護・保健領域における課題を、学際的・国際的な視野での科学的思考と問題の本質を見抜く論理的思考、柔軟な視点を持って発見できる。</p> <p>(6)研究遂行能力 学際的・国際的な視野を持って看護学における課題を自ら発見し、看護学を体系化するため、自立して研究を推進できる。</p> <p>『一般目標(GIO)』</p> <p>①自己の研究課題を明確にする。</p>		
授業計画	<p>1-8. 研究テーマの検討 [演習] 9-16. 関連文献の検討 [演習] 17-20. 研究方法論の検討 [演習] 21-30. 研究計画書の作成 [演習]</p> <p>(フィードバック方法)課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。</p>		
準備学習	<p>(予習) 1-30. 博士論文作成にむけたタイムスケジュールを作成し、それに基づいてゼミの内容、日程を調整する。毎回のゼミはそれに基づいて行う。ゼミ前日までにレジメと参考文献（必要時）を指導教員に提出する。</p> <p>(復習) 1-30. 授業でのコメントをもとに、不足している点について補足学習を行い、タイムスケジュールに基づき研究をすすめる。</p> <p>☆概ね週当たり 4 時間以上必要である。 ☆時間外学習時間(予習復習など)は 120 時間以上が必要であるため不足分は休暇などをを利用して復習しておくこと。</p>		
評価方法	口頭試問(50%)、課題(50%)		
備考	この科目は 4 単位です。		

科目名	特別研究 I	授業コード	24N3T1G1 / 24N3T1G2
代表教員	佐々木 裕子	担当教員	佐々木 裕子
授業概要	博士論文作成に向けて、研究課題および研究方法を明確にし、自立した研究活動を開く。		
学位授与方針の関連 学習目標	<p>『学位授与方針との関連』</p> <p>(1) 高い倫理観 生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理観を持ち、他者を尊重し、自己を律して、研究を遂行できる。</p> <p>(4) 先行研究を批判的に吟味できる能力 看護・保健領域における国内外の学術論文を、仮説の設定、研究デザイン、データ分析と解釈および考察について、批判的に吟味することができる。</p> <p>(5) 看護・保健領域における課題発見能力 看護・保健領域における課題を、学際的・国際的な視野での科学的思考と問題の本質を見抜く論理的思考、柔軟な視点を持って発見できる。</p> <p>(6) 研究遂行能力 学際的・国際的な視野を持って看護学における課題を自ら発見し、看護学を体系化するため、自立して研究を推進できる。</p> <p>『一般目標(GI0)』 研究課題および方法を明確にし研究計画書を作成することができる。</p>		
授業計画	<p>1-10. 課題解決を必要とする研究論文のレビューと研究課題の明確化 [演習]</p> <p>11-20. 研究テーマの選定とテーマに対応した研究デザインの検討 [演習]</p> <p>21-30. 研究計画書の作成 [演習・プレゼンテーション] (フィードバック方法)課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。</p>		
準備学習	<p>(予習)</p> <p>1-30. 博士論文作成に向けたタイムスケジュールを作成し、それに基づいてゼミの内容、日程を調整する。各回ともゼミ前日までにレジメと参考文献を指導教員に提出する。</p> <p>(復習)</p> <p>1-30. 授業でのコメントをもとに、学習の不足している点については補足学習を行い、追加の資料を作成する。</p> <p>☆概ね週当たり 4 時間以上必要である。</p> <p>☆時間外学習時間(予習復習など)は 120 時間以上が必要であるため不足分は休暇などをを利用して復習しておくこと。</p>		
評価方法	口頭試問(50%)、研究計画書(50%)		
備考	この科目は 4 単位です。		

科目名	特別研究 I	授業コード	24N3T1J1 / 24N3T1J2
代表教員	藤田 千春	担当教員	
授業概要	博士論文作成に向けて、研究課題および研究方法を明確にし、自立した研究活動を展開する。		
学位授与方針の関連 学習目標	<p>『学位授与方針との関連』</p> <p>(1)高い倫理観 生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理観を持ち、他者を尊重し、自己を律して研究を遂行できる。</p> <p>(4)先行研究を批判的に吟味できる能力 看護・保健領域における国内外の学術論文を、仮設の設定、研究デザイン、データ分析と解釈及び考察について、批判的に吟味することができる。</p> <p>(5)看護・保健領域における課題発見能力 看護・保健領域における課題を、学際的・国際的な視野での科学的思考と問題の本質を見抜く論理的思考、柔軟な視点を持って発見できる。</p> <p>(6)研究遂行能力 学際的・国際的な視野を持って看護学における課題を自ら発見し、看護学を体系化するため、自立して研究を推進できる。</p> <p>『一般目標(GI0)』 自己の研究課題を明確化し、独創性かつ看護への貢献を目指した研究計画が作成できる。</p>		
授業計画	<p>1-8. 研究テーマの検討 [演習]      9-16. 関連文献の検討 [演習]      17-20. 研究方法、研究フィールドの検討 [演習]      21-30. 研究計画書の作成 [演習]</p> <p>(フィードバック方法)課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。</p>		
準備学習	<p>(予習)      1-30. 博士論文作成にむけたタイムスケジュールを作成し、それに基づいてゼミの内容、日程を調整する。毎回のゼミはそれに基づいて行う。ゼミ前日までにレジメと参考文献（必要時）を指導教員に提出する。</p> <p>(復習)      1-30. 授業でのコメントをもとに、不足している点について補足学習を行い、タイムスケジュールに基づき研究をすすめる。</p> <p>☆概ね週当たり 4 時間以上必要である。すべての回、予習は 60 分、復習は 60 分必要とする。</p> <p>☆時間外学習時間(予習復習など)は 120 時間以上が必要であるため不足分は休暇</p>		
評価方法	口頭試問(50%)、研究計画書(50%)		
備考	この科目は 4 単位です。		

科目名	特別研究 I	授業コード	24N3T1K1 / 24N3T1K2
代表教員	岩崎 孝子	担当教員	
授業概要	学位論文作成に向けて、研究課題および研究方法を明確にし、自立した研究活動を開く。		
学位授与方針の関連 学習目標	<p>《学位授与方針との関連》</p> <p>(1) 高い倫理観 生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理観を持ち、他者を尊重し、自己を律して、研究を遂行できる。</p> <p>(4) 先行研究を批判的に吟味できる能力 看護・保健領域における国内外の学術論文を、仮説の設定、研究デザイン、データ分析と解釈および考察について、批判的に吟味することができる。</p> <p>(5) 看護・保健領域における課題発見能力 看護・保健領域における課題を、学際的・国際的な視野での科学的思考と問題の本質を見抜く論理的思考、柔軟な視点を持って発見できる。</p> <p>(6) 研究遂行能力 学際的・国際的な視野を持って看護学における課題を自ら発見し、看護学を体系化するため、自立して研究を推進できる。</p> <p>《一般目標 (GIO)》 研究課題および方法を明確にし、研究計画書を作成することができる。</p>		
授業計画	<p>1-8. 研究テーマの検討 [演習] 関心のある領域の文献を検討し、研究課題を明確にしていく。</p> <p>9-16. 研究課題に関する先行文献の検討 [演習] 各自の研究課題に関する先行文献のレビューを行う。</p> <p>17-20. 研究方法の検討 [演習]</p> <p>21-30. 研究計画書の作成 [演習] (フィードバック方法) 課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。</p>		
準備学習	<p>1-30. 各回とも、それぞれにテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。 また、次回テーマに関して整理、検討し、プレゼンテーション資料の準備をしておくこと。</p> <p>(復習)</p> <p>1-30. 学習の不足している点は資料に基づき補足学習を実施すること。 ※全ての回、予習は 60 分、復習は 60 分必要とする。 ☆概ね週当たり 4 時間以上必要である。 ☆時間外学習時間（予習復習など）は 120 時間以上が必要であるため不足分は休暇などをを利用して復習しておくこと。</p>		
評価方法	口頭試問 (50%)、研究計画書 (50%)		
備考	この科目は 4 単位です。		

科目名	特別研究 I	授業コード	24N3T1L1 / 24N3T1L2
代表教員	米山 雅子	担当教員	
授業概要	博士論文作成に向けて、研究課題および研究方法を明確にし、自立した研究活動を開く。		
学位授与方針の関連 学習目標	<p>《学位授与方針との関連》</p> <p>(1)高い倫理観 生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理観を持ち、他者を尊重し、自己を律して研究を遂行できる。</p> <p>(4)先行研究を批判的に吟味できる能力 看護・保健領域における国内外の学術論文を、仮説の設定、研究デザイン、データ分析と解釈及び考察について、批判的に吟味することができる。</p> <p>(5)看護・保健領域における課題発見能力 看護・保健領域における課題を、学際的・国際的な視野での科学的思考と問題の本質を見抜く論理的思考、柔軟な視点を持って発見できる。</p> <p>(6)研究遂行能力 学際的・国際的な視野を持って看護学における課題を自ら発見し、看護学を体系化するため、自立して研究を推進できる。</p> <p>《一般目標(GI0)》 自己の研究課題を明確化し、独創性かつ看護への貢献を目指した研究計画が作成できる。</p>		
授業計画	<p>1-8. 研究テーマの検討 [演習] 9-16. 関連文献の検討 [演習] 17-20. 研究方法、研究フィールドの検討 [演習] 21-30. 研究計画書の作成 [演習]</p> <p>(フィードバック方法)課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。</p>		
準備学習	<p>(予習) 1-30. 博士論文作成にむけたタイムスケジュールを作成し、それに基づいてゼミの内容、日程を調整する。毎回のゼミはそれに基づいて行う。ゼミ前日までにレジメと参考文献（必要時）を指導教員に提出する。</p> <p>(復習) 1-30. 授業でのコメントをもとに、不足している点について補足学習を行い、タイムスケジュールに基づき研究をすすめる。</p> <p>☆概ね週当たり 4 時間以上必要である。すべての回、予習は 60 分、復習は 60 分必要とする。</p> <p>☆時間外学習時間(予習復習など)は 120 時間以上が必要であるため不足分は休暇などをを利用して復習しておくこと。</p>		
評価方法	口頭試問(50%)、研究計画書(50%)		

備考

この科目は4単位です。

科目名	特別研究Ⅱ	授業コード	24N3T2C1 / 24N3T2C2
代表教員	加賀谷 聰子	担当教員	
授業概要	<p>特別研究Ⅰで作成された研究テーマに沿って、具体的な研究方法を計画立案されていることを確認し、必要な倫理審査が受けられるように指導する。</p> <p>倫理審査承認後、実際の研究課題に対し、研究が適切に進められるよう指導を行う。</p> <p>また、継続的に研究に関連する最新文献をチェックしていく。</p>		
学位授与方針の関連 学習目標	<p>『学位授与方針との関連』</p> <p>(1) 高い倫理観 生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理観を持ち、他者を尊重し、自己を律して、研究を遂行できる。</p> <p>(6) 研究遂行能力 学際的・国際的な視野を持って看護学における課題を自ら発見し、看護学を体系化するため、自立して研究を推進できる。</p> <p>『一般目標(GIO)』 研究の進捗状況を当該年度の研究報告会において発表する。成績評価については、指導教授以外の評価を導入し、必要な助言を行う。なお、最終的な単位認定は指導教授が行う。</p>		
授業計画	<p>1-2. 研究計画の確認、再検討 [演習] 特別研究Ⅰで検討した研究計画について、内容の確認と再検討を行う。</p> <p>3-5. 研究方法の検討 [演習] 研究方法の詳細な検討を行う。</p> <p>6-10. 文献検索 [演習] 各自のテーマに沿って必要な文献検討を適宜追加で実施する。</p> <p>11-13. フィールドワーク [演習] データ収集に向けて準備を進め、倫理審査承認後データ収集を進めていく。</p> <p>14-15. プrezentation [演習] 研究の進行状況についてプレゼンテーションを行い、ディスカッションで内容を深める</p>		
準備学習	<p>(予習) 1-15. 各回とも、それぞれのテーマに関する基礎的な事項を学習し直しておくこと。 また、次回のテーマに関してデータ整理、検討を行い、資料を作成すること。</p> <p>(復習) 1-15. 学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。 ※全ての回、予習は60分、復習は30分必要とする。 ☆概ね週当たり4時間以上必要である。 ☆時間外学習時間(予習復習など)は60時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。</p>		
評価方法	口頭試問(70%)、プレゼンテーション(30%)		
備考	この科目は2単位です。		

科目名	特別研究Ⅱ	授業コード	24N3T2D1 / 24N3T2D2
代表教員	浅沼 奈美	担当教員	
授業概要	<p>特別研究Ⅰで作成された研究テーマに沿って、具体的な研究方法を計画立案されていることを確認し、必要な倫理審査が受けられるように指導する。</p> <p>倫理審査承認後、実際の研究課題に対し、研究が適切に進めることができるよう指導を行う。また、継続的に研究に関連する最新文献をチェックしていく。</p>		
学位授与方針の関連 学習目標	<p>『学位授与方針との関連』</p> <p>(1) 高い倫理観 生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理観を持ち、他者を尊重し、自己を律して、研究を遂行できる。</p> <p>(6) 研究遂行能力 学際的・国際的な視野を持って看護学における課題を自ら発見し、看護学を体系化するため、自立して研究を推進できる。</p> <p>『一般目標(GI0)』 研究の進捗状況を当該年度の研究報告会において発表する。成績評価については、指導教授以外の評価を導入し、必要な助言を行う。なお、最終的な単位認定は指導教授が行う。</p>		
授業計画	<p>1-3. 研究計画の確認、再検討 (3回) [演習・プレゼンテーション]          4-6. 研究方法の検討 (3回) [演習・プレゼンテーション]          7-9. 文献検索(3回) [演習・プレゼンテーション]          10-12. フィールドワーク (3回) [演習・プレゼンテーション]          13-15. プrezentation (3回) [プレゼンテーション]          (フィードバック方法)課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。</p>		
準備学習	<p>(予習) 1-15. 各回とも、それぞれのテーマに関する基礎的な事項を学習し直しておくこと。 次回テーマについてのデータ整理、検討し資料を作成すること。</p> <p>(復習) 1-15. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。</p> <p>☆概ね週当たり 4 時間以上必要である。 ☆時間外学習時間(予習復習など)は 60 時間以上が必要であるため不足分は休暇などをを利用して復習しておくこと。</p>		
評価方法	口頭試問(70%)、プレゼンテーション(30%)		
備考	この科目は 2 単位です。		

科目名	特別研究Ⅱ	授業コード	24N3T2E1 / 24N3T2E2
代表教員	勝又 里織	担当教員	勝又 里織
授業概要	<p>特別研究Ⅰで作成された研究テーマに沿って、具体的な研究方法を計画立案されていることを確認し、必要な倫理審査が受けられるように指導する。</p> <p>倫理審査承認後、実際の研究課題に対し研究が適切に進められるよう指導を行う。また、継続的に研究に関連する最新文献をチェックしていく。</p>		
学位授与方針の関連 学習目標	<p>『学位授与方針との関連』</p> <p>(1) 高い倫理観 生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理観を持ち、他者を尊重し、自己を律して、研究を遂行できる。</p> <p>(6) 研究遂行能力 学際的・国際的な視野を持って看護学における課題を自ら発見し、看護学を体系化するため、自立して研究を推進できる。</p> <p>『一般目標(GIO)』 研究の進捗状況を当該年度の研究報告会において発表する。成績評価については、指導教授以外の評価を導入し、必要な助言を行う。なお、最終的な単位認定は指導教授が行う。</p>		
授業計画	<p>1-3. 研究計画の確認、再検討 [演習] 4-6. 研究方法の検討 [演習] 7-10. 文献検索 [演習] 11-13. フィールドワーク [演習] 14-15. プレゼンテーション [演習]</p> <p>(フィードバック方法)課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。</p>		
準備学習	<p>(予習) 1-15. 各回とも、ゼミ前日までにレジメを作成し、参考文献を指導教員に提出する。 (復習) 1-15. ゼミでのコメントをもとに、不足している点については補足学習を行い、研究の修正を行う。 ☆概ね週当たり 4 時間以上必要である。 ☆時間外学習時間(予習復習など)は 60 時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。</p>		
評価方法	口頭試問(70%)、プレゼンテーション(30%)		
備考	この科目は 2 単位です。		

科目名	特別研究Ⅱ	授業コード	24N3T2G1 / 24N3T2G2
代表教員	佐々木 裕子	担当教員	佐々木 裕子
授業概要	特別研究Ⅰで選定した研究テーマに沿って、具体的な研究方法を計画立案されていることを確認し、必要な倫理審査が受けられるように指導する。倫理審査承認後、実際の研究課題に対し、研究が適切に進めることができるよう指導を行う。また、継続的に研究に関連する最新文献を読み、討議する。		
学位授与方針の関連 学習目標	<p>『学位授与の方針との関連』</p> <p>(1) 高い倫理観 生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理観を持ち、他者を尊重し、自己を律して、研究を遂行できる。</p> <p>(6) 研究遂行能力 学際的・国際的な視野を持って看護学における課題を自ら発見し、看護学を体系化するため、自立して研究を推進できる。</p> <p>『一般目標(GIO)』</p> <p>研究の進捗状況を当該年度の研究報告会において発表する。成績評価については、指導教授以外の評価を導入し、必要な助言を行う。なお、最終的な単位認定は指導教授が行う。</p>		
授業計画	<p>1-3. 研究計画の確認、再検討 [演習・プレゼンテーション]</p> <p>4-6. 研究方法の検討 [演習・プレゼンテーション]</p> <p>7-9. 文献検索 [演習・プレゼンテーション]</p> <p>10-12. フィールドワーク [演習・プレゼンテーション]</p> <p>13-15. プrezentation [プレゼンテーション] (フィードバック方法)課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。</p>		
準備学習	<p>(予習) 1-15. 各回とも、それぞれのテーマに関する基礎的な事項を学習し直しておくこと。 次回テーマについてのデータ整理、検討し資料を作成すること。</p> <p>(復習) 1-15. 授業でのコメントをもとに、学習の不足している点については補足学習を行い、追加の資料を作成する。</p> <p>※全ての回、予習は30分、復習は30分必要とする。 ☆概ね週当たり4時間以上必要である。 ☆時間外学習時間(予習復習など)は60時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。</p>		
評価方法	口頭試問(70%)、プレゼンテーション(30%)		
備考	この科目は2単位です。		

科目名	特別研究Ⅱ	授業コード	24N3T2J1 / 24N3T2J2
代表教員	藤田 千春	担当教員	藤田 千春
授業概要	特別研究Ⅰで作成された研究テーマに沿って、具体的な研究方法を計画立案していることを確認し、必要な倫理審査が受けられるように指導する。倫理審査承認後、実際の研究課題に対し研究が適切に進められるよう指導を行う。また、継続的に研究に関連する最新文献をチェックしていく。		
学位授与方針の関連 学習目標	<p>『学位授与方針との関連』</p> <p>(1) 高い倫理観 生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理観を持ち、他者を尊重し、自己を律して研究を遂行できる。</p> <p>(6) 研究遂行能力 学際的・国際的な視野を持って看護学における課題を自ら発見し、看護学を体系化するため、自立して研究を推進できる。</p> <p>『一般目標(GIO)』 研究の進捗状況を当該年度の研究報告会において発表する。成績評価については、指導教授以外の評価を導入し、必要な助言を行う。なお、最終的な単位認定は指導教授が行う。</p>		
授業計画	<p>1-3. 研究計画の確認、再検討 [演習、プレゼンテーション]</p> <p>4-6. 研究方法の検討 [演習、プレゼンテーション]</p> <p>7-10. 文献検索 [演習、プレゼンテーション]</p> <p>11-13. フィールドワーク [演習、プレゼンテーション]</p> <p>14-15. プrezentation [演習、プレゼンテーション] (フィードバック方法)課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。</p>		
準備学習	<p>(予習) 1-15. 各回とも、ゼミ前日までにレジメを作成し、参考文献を指導教員に提出する。</p> <p>(復習) 1-15. ゼミでのコメントをもとに、不足している点については補足学習を行い、研究の修正を行う。 ☆概ね週当たり 4 時間以上必要である。全ての回、予習は 30 分、復習は 30 分必要とする。 ☆時間外学習時間(予習復習など)は 60 時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。</p>		
評価方法	口頭試問(70%)、プレゼンテーション(30%)		
備考	この科目は 2 単位です。		

科目名	特別研究Ⅱ	授業コード	24N3T2K1 / 24N3T2K2
代表教員	岩崎 孝子	担当教員	岩崎 孝子
授業概要	特別研究Ⅰで作成された研究テーマに沿って、具体的な研究計画立案されていることを確認し、必要な倫理審査が受けられるように指導する。倫理審査承認後、実際の研究課題に対し、研究が適切に進められるよう指導を行う。また、継続的に研究に関連する最新文献をチェックしていく。		
学位授与方針の関連 学習目標	<p>『学位授与方針との関連』</p> <p>(1) 高い倫理観 生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理観を持ち、他者を尊重し、自己を律して、研究を遂行できる。</p> <p>(6) 研究遂行能力 学際的・国際的な視野を持って看護学における課題を自ら発見し、看護学を体系化するため、自立して研究を推進できる。</p> <p>『一般目標 (GIO)』 研究倫理のもと研究課題の探求のため、適切に研究を遂行できる。</p> <p>『個別目標 (SB0s)』            ①研究の進捗状況を当該年度の研究報告会において、わかりやすく発表できる。            ②倫理的判断を適切に行い、研究を遂行する。</p>		
授業計画	1-2. 研究計画の確認、再検討 [演習] 3-5. 研究方法の検討 [演習] 6-10. 文献検討 [演習] 11-13. フィールドワーク [演習] 14-15. プrezentation [演習]		
準備学習	1-15. 各回とも、それぞれにテーマに関する基礎的な事項を学習し直しておくこと。 また、次回テーマに関して整理、検討し、プレゼンテーション資料の準備をしておくこと。 (復習) 1-15. 学習の不足している点は資料に基づき補足学習を実施すること。 ※全ての回、予習は30分、複数は30分必要とする。 ☆概ね週当たり4時間以上必要である。 ☆時間外学習時間（予習復習など）は60時間以上が必要であるため不足分は休暇などをを利用して復習しておくこと。		
評価方法	口頭試問 (70%)、プレゼンテーション (30%)		
備考	この科目は2単位です。		

科目名	特別研究Ⅱ	授業コード	24N3T2L1 / 24N3T2L2
代表教員	米山 雅子	担当教員	
授業概要	特別研究Ⅰで作成された研究テーマに沿って、具体的な研究方法を計画立案していることを確認し、必要な倫理審査が受けられるように指導する。倫理審査承認後、実際の研究課題に対し研究が適切に進められるよう指導を行う。また、継続的に研究に関連する最新文献をチェックしていく。		
学位授与方針の関連 学習目標	<p>『学位授与方針との関連』</p> <p>(1)高い倫理観 生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理観を持ち、他者を尊重し、自己を律して研究を遂行できる。</p> <p>(6)研究遂行能力 学際的・国際的な視野を持って看護学における課題を自ら発見し、看護学を体系化するため、自立して研究を推進できる。</p> <p>『一般目標(GIO)』</p> <p>研究の進捗状況を当該年度の研究報告会において発表する。成績評価については、指導教授以外の評価を導入し、必要な助言を行う。なお、最終的な単位認定は指導教授が行う。</p>		
授業計画	<p>1-3. 研究計画の確認、再検討 [演習、プレゼンテーション]</p> <p>4-6. 研究方法の検討 [演習、プレゼンテーション]</p> <p>7-10. 文献検索 [演習、プレゼンテーション]</p> <p>11-13. フィールドワーク [演習、プレゼンテーション]</p> <p>14-15. プrezentation [演習、プレゼンテーション]</p> <p>(フィードバック方法)課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。</p>		
準備学習	<p>(予習)</p> <p>1-15. 各回とも、ゼミ前日までにレジメを作成し、参考文献を指導教員に提出する。</p> <p>(復習)</p> <p>1-15. ゼミでのコメントをもとに、不足している点については補足学習を行い、研究の修正を行う。</p> <p>☆概ね週当たり 4 時間以上必要である。全ての回、予習は 30 分、復習は 30 分必要とする。</p> <p>☆時間外学習時間(予習復習など)は 60 時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。</p>		
評価方法	口頭試問(70%)、プレゼンテーション(30%)		
備考	この科目は 2 単位です。		

科目名	特別研究III	授業コード	24N3T3C1 / 24N3T3C2
代表教員	加賀谷 聰子	担当教員	加賀谷 聰子
授業概要	特別研究IIIでは、特別研究IIの指導過程において指摘された問題点に対し修正を行う。研究が順調に進行するように指導していく。さらに論文作成に際し、研究結果の解釈などにつき十分に議論していく。		
学位授与方針の関連 学習目標	<p>『学位授与方針との関連』</p> <p>(1)高い倫理観 生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理観を持ち、他者を尊重し、自己を律して、研究を遂行できる。</p> <p>(6)研究遂行能力 学際的・国際的な視野を持って看護学における課題を自ら発見し、看護学を体系化するため、自立して研究を推進できる。</p> <p>『一般目標(GIO)』</p> <p>特別研究IIと同様に、研究の進捗状況を当該年度の研究報告会において発表する。指導教授以外の評価を導入し、博士論文として十分な学術的価値を持ったものになるようとする。なお、最終的な単位認定は指導教授が行う。</p>		
授業計画	<p>1-2. 研究内容の再検討、整理 [演習] 特別研究IIや研究報告会での指摘を参考に、研究内容の再検討を行う。</p> <p>3-5. 研究結果の分析と考察、討論 [演習] 得られたデータを分析し、ディスカッションを行い内容を深めていく。</p> <p>6-10. 論文構成、内容整理 [演習] 論文構成について学び、各自の論文の構成や内容を整理する。</p> <p>11-13. 論文作成、討論 [演習] 論文を作成し、その内容についてディスカッションを行い内容を深める。</p> <p>14-15. プrezentation [演習] 研究結果をまとめ、プレゼン</p>		
準備学習	<p>(予習) 1-15. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。 また次回のテーマに関してデータ整理、検討を行い、資料を作成すること。</p> <p>(復習) 1-15. 学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。 ※全ての回、予習は60分、復習は30分必要とする。 ☆概ね週当たり4時間以上必要である。 ☆時間外学習時間(予習復習など)は60時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。</p>		
評価方法	口頭試問(70%)、プレゼンテーション(30%)		
備考	この科目は2単位です。		

科目名	特別研究III	授業コード	24N3T3D1 / 24N3T3D2
代表教員	浅沼 奈美	担当教員	浅沼 奈美
授業概要	特別研究IIIでは、特別研究IIの指導過程において指摘された問題点に対し修正を行う。研究が順調に進行するよう指導していく。さらに論文作成に際し、研究結果の解釈などにつき十分に議論していく。		
学位授与方針の関連 学習目標	<p>『学位授与方針との関連』</p> <p>(1)高い倫理観 生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理観を持ち、他者を尊重し、自己を律して、研究を遂行できる。</p> <p>(6)研究遂行能力 学際的・国際的な視野を持って看護学における課題を自ら発見し、看護学を体系化するため、自立して研究を推進できる。</p> <p>『一般目標(GIO)』</p> <p>特別研究IIと同様に、研究の進捗状況を当該年度の研究報告において発表する。指導教授以外の評価を導入し、博士論文として十分な学術的価値を持ったものになるようとする。なお、最終的な単位認定は指導教授が行う。</p>		
授業計画	<p>1-3. 研究内容の再検討、整理(3回) [演習・プレゼンテーション]</p> <p>4-6. 研究結果の分析と考察、討論 (3回) [演習・プレゼンテーション]</p> <p>7-9. 論文構成、内容整理 (3回) [演習・プレゼンテーション]</p> <p>10-12. 論文作成、討論 (3回) [演習・プレゼンテーション]</p> <p>13-15. プrezentation (3回) [プレゼンテーション] (フィードバック方法)課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。</p>		
準備学習	<p>(予習) 1-15. 各回とも、それぞれのテーマに関する基礎的な事項を学習し直しておくこと。 次回テーマに関してのデータ整理、検討し資料を作成すること。</p> <p>(復習) 1-15. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。</p> <p>☆概ね週当たり 4 時間以上必要である。 ☆時間外学習時間(予習復習など)は 60 時間以上が必要であるため不足分は休暇などをを利用して復習しておくこと。</p>		
評価方法	口頭試問(70%)、プレゼンテーション(30%)		
備考	この科目は 2 単位です。		

科目名	特別研究Ⅲ	授業コード	24N3T3E1 / 24N3T3E2
代表教員	勝又 里織	担当教員	勝又 里織
授業概要	特別研究Ⅲでは、特別研究Ⅱの指導過程において指摘された問題点に対し修正を行う。研究が順調に進行するよう指導していく。さらに論文作成に際し、研究結果の解釈などにつき十分に議論していく。		
学位授与方針の関連 学習目標	<p>『学位授与方針との関連』</p> <p>(1) 高い倫理観 生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理観を持ち、他者を尊重し、自己を律して、研究を遂行できる。</p> <p>(6) 研究遂行能力 学際的・国際的な視野を持って看護学における課題を自ら発見し、看護学を体系化するため、自立して研究を推進できる。</p> <p>『一般目標(GIO)』 特別研究Ⅱと同様に、研究の進捗状況を当該年度の研究報告において発表する。指導教授以外の評価を導入し、博士論文として十分な学術的価値を持ったものになるようとする。なお、最終的な単位認定は指導教授が行う。</p>		
授業計画	<p>1-3. 研究内容の再検討、整理 [演習] 4-6. 研究結果の分析と考察、討論 [演習] 7-10. 論文構成、内容整理 [演習] 11-13. 論文作成、討論 [演習] 14-15. プレゼンテーション [演習]</p> <p>(フィードバック方法)課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。</p>		
準備学習	<p>(予習) 1-15. 各回とも、ゼミ前日までにレジメを作成し、参考文献を指導教員に提出する。 (復習) 1-15. ゼミでのコメントをもとに、不足している点については補足学習を行い、研究の修正を行う。 ☆概ね週当たり 4 時間以上必要である。 ☆時間外学習時間(予習復習など)は 60 時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。</p>		
評価方法	口頭試問(70%)、プレゼンテーション(30%)		
備考	この科目は 2 単位です。		

科目名	特別研究III	授業コード	24N3T3G1 / 24N3T3G2
代表教員	佐々木 裕子	担当教員	佐々木 裕子
授業概要	特別研究IIIでは、特別研究IIの指導過程において指摘された問題点に対し修正を行う。研究が順調に進行するよう指導していく。さらに論文作成に際し、研究結果の解釈などにつき十分に議論していく。		
学位授与方針の関連 学習目標	<p>『学位授与の方針との関連』</p> <p>(1) 高い倫理観 生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理観を持ち、他者を尊重し、自己を律して、研究を遂行できる。</p> <p>(6) 研究遂行能力 学際的・国際的な視野を持って看護学における課題を自ら発見し、看護学を体系化するため、自立して研究を推進できる。</p> <p>『一般目標(GIO)』</p> <p>特別研究IIと同様に、研究の進捗状況を当該年度の研究報告において発表する。指導教授以外の評価を導入し、博士論文として十分な学術的価値を持ったものになるようとする。なお、最終的な単位認定は指導教授が行う。</p>		
授業計画	<p>1-3. 研究内容の再検討、整理 [演習・プレゼンテーション]</p> <p>4-6. 研究結果の分析と考察、討論 [演習・プレゼンテーション]</p> <p>7-9. 論文構成、内容整理 [演習・プレゼンテーション]</p> <p>10-12. 論文作成、討論 [演習・プレゼンテーション]</p> <p>13-15. プrezentation [プレゼンテーション] (フィードバック方法)課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。</p>		
準備学習	<p>(予習) 1-15. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。 次回テーマに関してのデータ整理、検討し資料を作成すること。</p> <p>(復習) 1-15. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。</p> <p>☆概ね週当たり4時間以上必要である。 ☆時間外学習時間(予習復習など)は60時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。</p>		
評価方法	口頭試問(70%)、プレゼンテーション(30%)		
備考	この科目は2単位です。		

科目名	特別研究Ⅲ	授業コード	24N3T3J1 / 24N3T3J2
代表教員	藤田 千春	担当教員	藤田 千春
授業概要	特別研究Ⅲでは、特別研究Ⅱの指導過程において指摘された問題点に対し修正を行う。研究が順調に進行するよう指導していく。さらに論文作成に際し、研究結果の解釈などにつき十分に議論していく。		
学位授与方針の関連 学習目標	<p>『学位授与方針との関連』</p> <p>(1)高い倫理観 生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理観を持ち、他者を尊重し、自己を律して研究を遂行できる。</p> <p>(6)研究遂行能力 学際的・国際的な視野を持って看護学における課題を自ら発見し、看護学を体系化するため、自立して研究を推進できる。</p> <p>『一般目標(GIO)』</p> <p>特別研究Ⅱと同様に、研究の進捗状況を当該年度の研究報告において発表する。指導教授以外の評価を導入し、博士論文として十分な学術的価値を持ったものになるようとする。なお、最終的な単位認定は指導教授が行う。</p>		
授業計画	<p>1-3. 研究内容の再検討、整理 [演習、プレゼンテーション]</p> <p>4-6. 研究結果の分析と考察、討論 [演習、プレゼンテーション]</p> <p>7-10. 論文構成、内容整理 [演習、プレゼンテーション]</p> <p>11-13. 論文作成、討論 [演習、プレゼンテーション]</p> <p>14-15. プrezentation [演習、プレゼンテーション] (フィードバック方法)課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。</p>		
準備学習	<p>(予習) 1-15. 各回とも、ゼミ前日までにレジメを作成し、参考文献を指導教員に提出する。 (復習) 1-15. ゼミでのコメントをもとに、不足している点については補足学習を行い、研究の修正を行う。 ☆概ね週当たり 4 時間以上必要である。全ての回、予習は 30 分、復習は 30 分必要とする。 ☆時間外学習時間(予習復習など)は 60 時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。</p>		
評価方法	口頭試問(70%)、プレゼンテーション(30%)		
備考	この科目は 2 単位です。		

科目名	特別研究Ⅲ	授業コード	24N3T3K1 / 24N3T3K2
代表教員	岩崎 孝子	担当教員	岩崎 孝子
授業概要	特別研究Ⅲでは、特別研究Ⅱの指導過程において指摘された問題点に対し修正を行う。研究が順調に進行するように指導していく。さらに論文作成に際し、研究課題の解釈などにつき十分に議論していく。		
学位授与方針の関連 学習目標	<p>『学位授与方針との関連』</p> <p>(1) 高い倫理観 生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理観を持ち、他者を尊重し、自己を律して、研究を遂行できる。</p> <p>(6) 研究遂行能力 学際的・国際的な視野を持って看護学における課題を自ら発見し、看護学を体系化するため、自立して研究を推進できる。</p> <p>『一般目標 (GIO) 』</p> <p>研究成果をまとめ論文を作成する。</p>		
授業計画	<p>1-2. 研究内容の再検討、整理 [演習]      3-5. 研究結果の分析と考察、討論 [演習]      6-10. 論文構成、内容整理 [演習]      11-13. 論文作成、討論 [演習]      14-15. プrezentation [演習]</p> <p>(フィードバック方法) 課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。</p>		
準備学習	<p>1-15. 各回とも、それぞれにテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。 また、次回テーマに関して整理、検討し、プレゼンテーション資料の準備をしておくこと。</p> <p>(復習)</p> <p>1-15. 学習の不足している点は資料に基づき補足学習を実施すること。 ☆概ね週当たり 4 時間以上必要である。 ☆時間外学習時間（予習復習など）は 60 時間以上が必要であるため不足分は休暇などをを利用して復習しておくこと。</p>		
評価方法	口頭試問 (70%)、プレゼンテーション (30%)		
備考	この科目は 2 単位です。		

科目名	特別研究Ⅲ	授業コード	24N3T3L1 / 24N3T3L2
代表教員	米山 雅子	担当教員	
授業概要	特別研究Ⅲでは、特別研究Ⅱの指導過程において指摘された問題点に対し修正を行う。研究が順調に進行するよう指導していく。さらに論文作成に際し、研究結果の解釈などにつき十分に議論していく。		
学位授与方針の関連 学習目標	<p>『学位授与方針との関連』</p> <p>(1)高い倫理観 生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした倫理観を持ち、他者を尊重し、自己を律して研究を遂行できる。</p> <p>(6)研究遂行能力 学際的・国際的な視野を持って看護学における課題を自ら発見し、看護学を体系化するため、自立して研究を推進できる。</p> <p>『一般目標(GIO)』</p> <p>特別研究Ⅱと同様に、研究の進捗状況を当該年度の研究報告において発表する。指導教授以外の評価を導入し、博士論文として十分な学術的価値を持ったものになるようになる。なお、最終的な単位認定は指導教授が行う。</p>		
授業計画	<p>1-3. 研究内容の再検討、整理 [演習、プレゼンテーション]</p> <p>4-6. 研究結果の分析と考察、討論 [演習、プレゼンテーション]</p> <p>7-10. 論文構成、内容整理 [演習、プレゼンテーション]</p> <p>11-13. 論文作成、討論 [演習、プレゼンテーション]</p> <p>14-15. プrezentation [演習、プレゼンテーション] (フィードバック方法)課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。</p>		
準備学習	<p>(予習)</p> <p>1-15. 各回とも、ゼミ前日までにレジメを作成し、参考文献を指導教員に提出する。</p> <p>(復習)</p> <p>1-15. ゼミでのコメントをもとに、不足している点については補足学習を行い、研究の修正を行う。</p> <p>☆概ね週当たり 4 時間以上必要である。全ての回、予習は 30 分、復習は 30 分必要とする。</p> <p>☆時間外学習時間(予習復習など)は 60 時間以上が必要であるため不足分は休暇などをを利用して復習しておくこと。</p>		
評価方法	口頭試問(70%)、プレゼンテーション(30%)		
備考	この科目は 2 単位です。		